

三野町の考古学的研究

—— 考古班（徳島考古学研究グループ） ——

三宅 良明^{*1} 中村 豊^{*2} 幸泉 満夫^{*3} 柳野 孝佳^{*4} 福原 智子^{*5}

1. はじめに

三野町の考古資料については、早くから故佐藤忠邦氏や故黒島幸男氏らによって石器・土器が採集されてきた。また、発掘調査については、町による加茂野宮遺跡の発掘調査をはじめとして、四国縦貫道調査に伴う館山遺跡等の調査により大きな成果を挙げた。今回の調査では、前述した佐藤忠邦氏や黒島幸男氏の採集・所蔵品の調査研究を中心にして、研究をまとめようと、以下の調査を実施した。

調査の経過

期 日 2002年7月27日(土)、28日(日)、11月1日(土)
 調査員 小林勝美、三宅良明、幸泉満夫、中川尚柳野孝佳、福原智子、高橋栄子、佐藤美和子、藤田良子、岡山真知子
 調査協力 故佐藤忠邦氏・故黒島幸男氏両夫人
 三野町教育委員会
 内 容 故佐藤忠邦氏・故黒島幸男氏採集・所蔵品の所在確認調査、実測・写真撮影。三野町加茂野宮遺跡出土品の実測・写真撮影。三野町の板碑の所在確認と、2基の板碑の実測調査・写真撮影。

2. 三野町古代における遺跡・遺物の分布

三野町における古代の遺跡・遺物の分布は、西は河内谷川から東は滝谷川左岸の大字加茂野宮に至る地域に集中している(図1)。

「勢力字東上野から旧石器時代のナイフ形石器が」(図2)、「芝生上の台地からは縄文時代の遺物が発掘され」(『三野町誌』263～268頁)ている。勢力上野は小高い丘陵地であり、芝生上も見晴らしのよい台地である。弥生時代の遺跡・遺物は滝谷川兩岸を中心に多く見られる。勢力の東北部の丘陵に館山遺跡(大谷尻遺跡)がある。館山遺跡は本町最古の弥生遺跡であり、最も高地に位置する。また、加茂野宮、勢力、芝生の低地や微高地には大規模な住居跡が分布する。これらの位置関係から、狩猟を行っていた旧石器・縄文時代の人々は、広範なこの地域を見渡せる高地に拠点を置き、農耕中心生活へ変わるに伴い、人々は農耕に便利な平野部を開拓し移り住んだと解せる。

三野町内の古墳は芝生に2基ある。本町東に多数分布し、巨大な支配力を持ち得たであろう段ノ塚穴古墳群の勢力圏に含まれ、特に大塚古墳は、この地域の支配体制の中核を成す古墳である。(福原)

文 献

三野町誌編集委員会(1974)：『三野町誌』三野町役場、263～268頁。

福原智子(1998)：『地域研究』段ノ塚穴・忌部山両古墳群の支配領域、鳴門教育大学地理学教室、42～44頁。

*1 徳島市教育委員会社会教育課 *2 徳島大学埋蔵文化財調査室 *3 財徳島県埋蔵文化財センター研究員
 *4 藍住町役場 *5 徳島県立阿南養護学校教諭

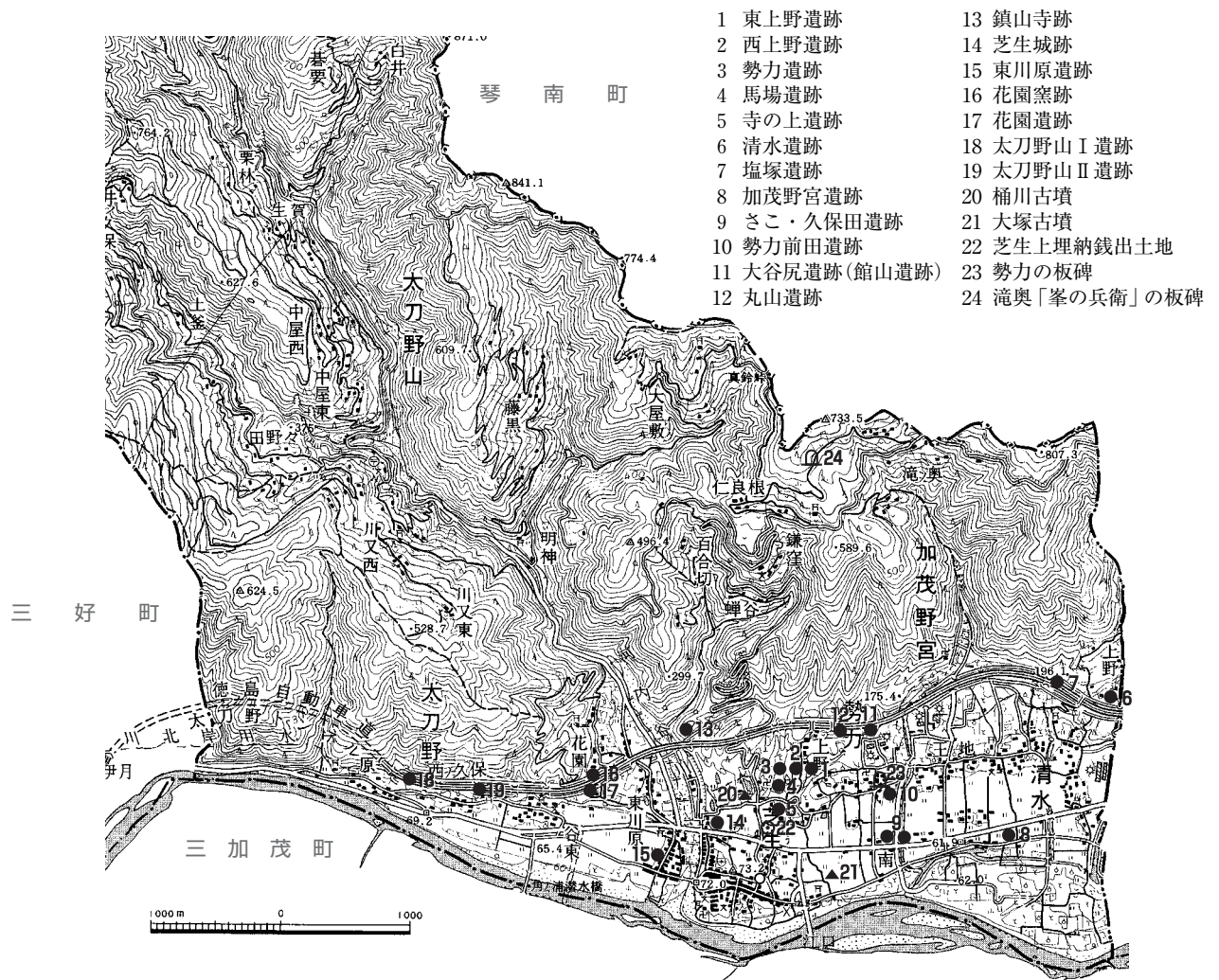


図1 三野町の主要遺跡と板碑の分布

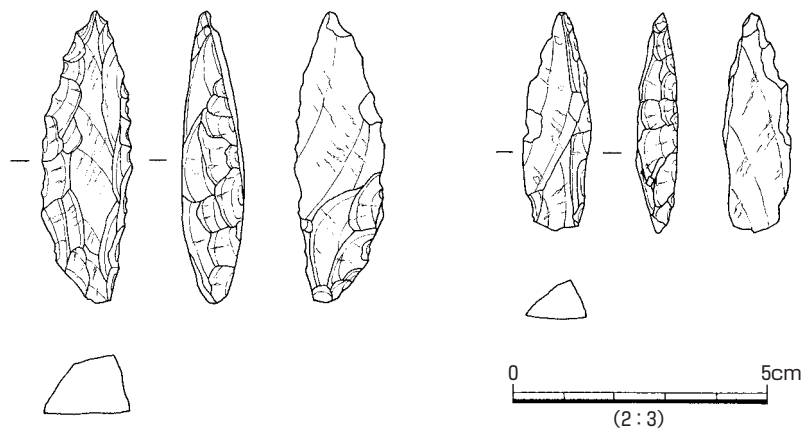


図2 東上野遺跡出土のナイフ形石器

3. 三野町出土石器の概略

三野町勢力遺跡、馬場遺跡で採集された石器は、確認しただけでも前者は391点、後者は312点にのぼる(表1・2)。そのうち主要なものを図示した(図3・4-24~38)。また、特徴的な遺物として上野遺跡採集の環状石斧も図示した(図4-39)。

勢力遺跡からは、打製石器が石鏃290点(図3-1~15ほか)、石槍22点(図3-16~18ほか)、石錐31点(図3-19・20ほか)、楔形石器1点、スクレイパー3点、二次加工剥片2点、打製石庖丁3点が採集されている。磨製石器は、太型蛤刃石斧3点(図3-22・23ほか)、柱状片刃石斧4点(図3-21ほか)、扁平片刃石斧1点である。以上のほかに、砥石片1点、剥片・残核・石核計29点が採集されている。

打製石器の石材は、打製石庖丁の1点が紅簾片岩であるのをのぞいて、残りはすべてサヌカイトである。磨製石器は、太型蛤刃石斧が御荷鉾帯緑色岩、柱状片刃石斧・扁平片刃石斧といった加工斧は結晶片岩である。ほかに、剥片・残核にチャート3点がみられる。石材の選択は、本地域の縄文・弥生時代の原則と同じである。

一方、馬場遺跡からは打製石器が石鏃271点(図4-24~36ほか)、石槍18点、石錐7点(図4-38ほか)、有茎尖頭器1点、楔形石器1点、スクレイパー4点、二次加工剥片2点、打製石庖丁1点(図4-37)が採集されている。磨製石器は、柱状片刃石斧2点である。以上のほかに、円盤状の不明石器1点、板状剥片1点が採集されている。

打製石器の石材は、すべてサヌカイトで、柱状片刃石斧は結晶片岩である。その他の石器・剥片もすべてサヌカイトで、石材の選択は、本地域の縄文・弥生時代の原則を守っている。

図4-39は上野遺跡採集の環状石斧である。最大長13.4cm、残幅10.1cm、孔径3.5cm、重量590.1gをはかる。刃部は明瞭に研ぎ出されていない。石材は御荷鉾緑色岩である。環状石斧の類例は、本県では徳島市南庄遺跡、三好町大柿遺跡などで若干認められるものの多くはない。

石鏃の分析

勢力遺跡、馬場遺跡出土の石鏃を形態分類し(図

5)、組成比をグラフ化した(図6)。いずれもB I(平基)式が勢力遺跡で52点、馬場遺跡で49点、B II 1(凹基)式が勢力遺跡で57点、馬場遺跡で63点と他型式を凌駕している。以上の2型式以外はいずれも20点以下にとどまっている。

小 結

以上、三野町勢力遺跡、馬場遺跡出土の石器と、上野遺跡採集の環状石斧を報告したが、いずれも採集資料という制約があり、十分な分析は果たせなかった。伴出土器が不明で、縄文時代か弥生時代のいずれに属するのかが明確ではない点は、大規模開発が進み、発掘資料の蓄積が著しい現状では、研究資料として制約があることは否めない。

それでも、以下に示すような成果はえることができたので記しておきたい。まず、石鏃に少量ながら有茎式(表1・2-IV・V・VI式、図3-11~13、図4-33~36)のものが認められ、相当数の石槍(図3-16~18)も認められる。さらには弥生時代石器の指標となる大陸系磨製石器、ないしはその影響を受けた石器も、太型蛤刃石斧(図3-22・23)、柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、環状石斧が一定量認められることから、石器の多くは弥生時代に属するとみてよいだろう。また、石鏃もB I(平基)式、B II 1(凹基)式(図3-1~10、図4-24~32)が大半を占めることからみて、石鏃の重量化が進む以前のものであるとみてよいのではあるまいか。

上野遺跡採集の環状石斧(図4-39)は、本地域では数少ない類例であり、今回の資料化は、研究材料として貴重な情報を提供することになるだろう。

石材利用は石鏃・石槍・石錐・打製石庖丁の一部にサヌカイト、打製石庖丁の一部に紅簾片岩、太型蛤刃石斧・環状石斧に御荷鉾緑色岩、その他の磨製石器に結晶片岩を使用しており、徳島における縄文・弥生両時代の原則と基本的には同じである。

以上の成果はあくまでも参考資料にとどまらざるをえないが、今後発掘資料によって検証していく必要があるだろう。(中村)

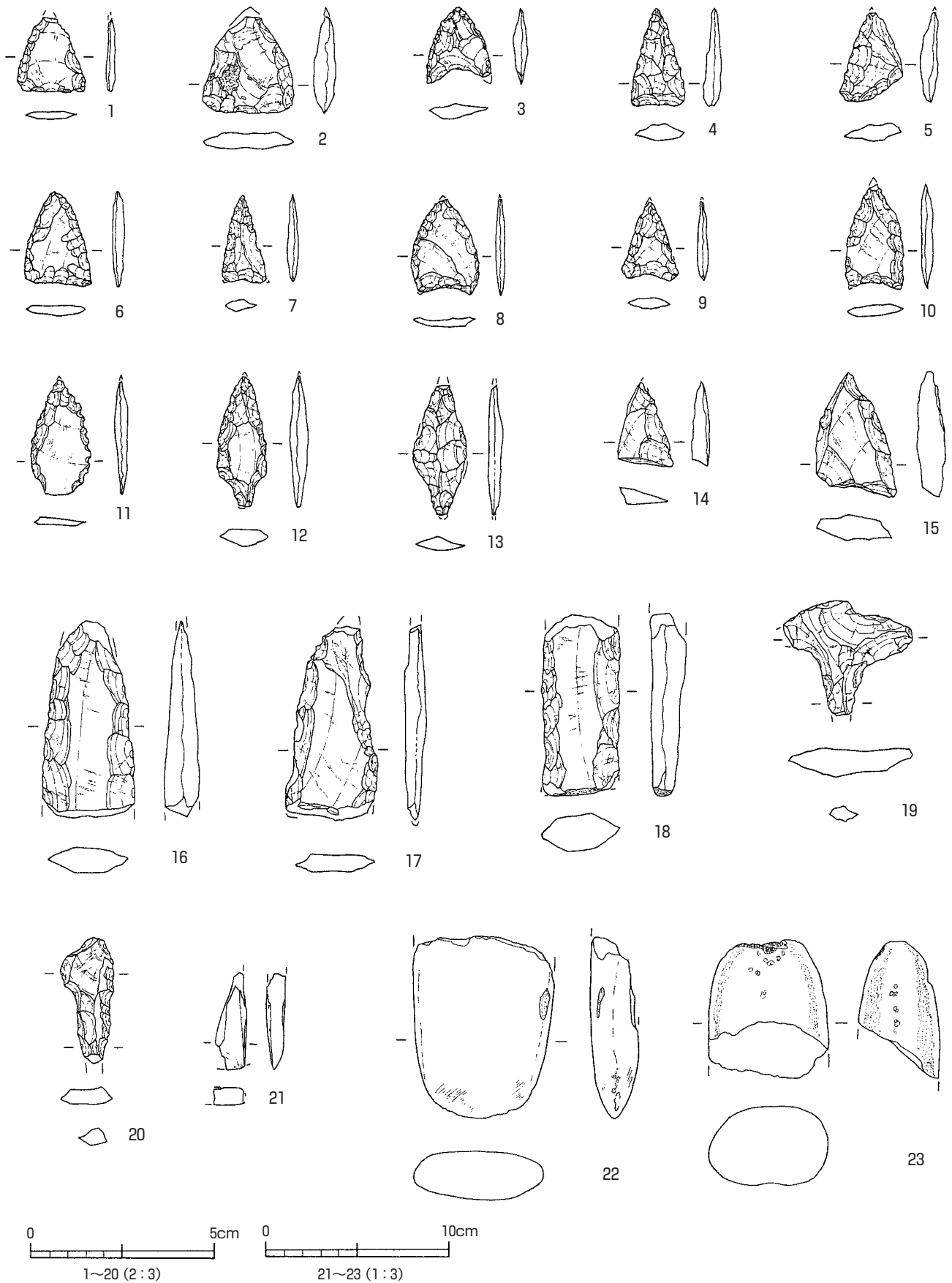


図3 勢力遺跡東上地点採集遺物実測図

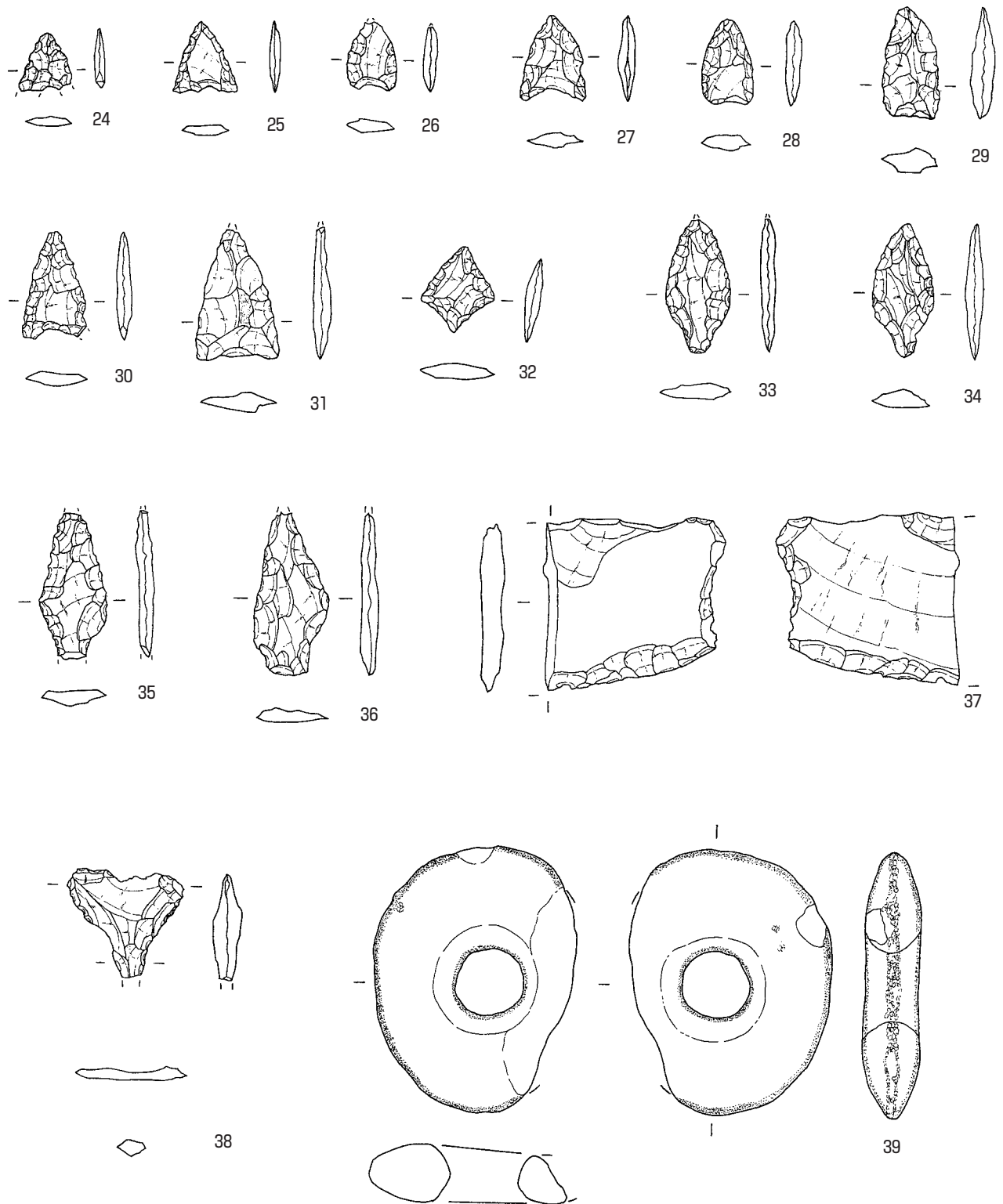


図4 馬場遺跡(1~38)、上野遺跡(39) 採集遺物実測図

	A	B	C	D
I				
II1				
II2				
III				
IV				
V				
VI				

図5 石鏃分類模式図

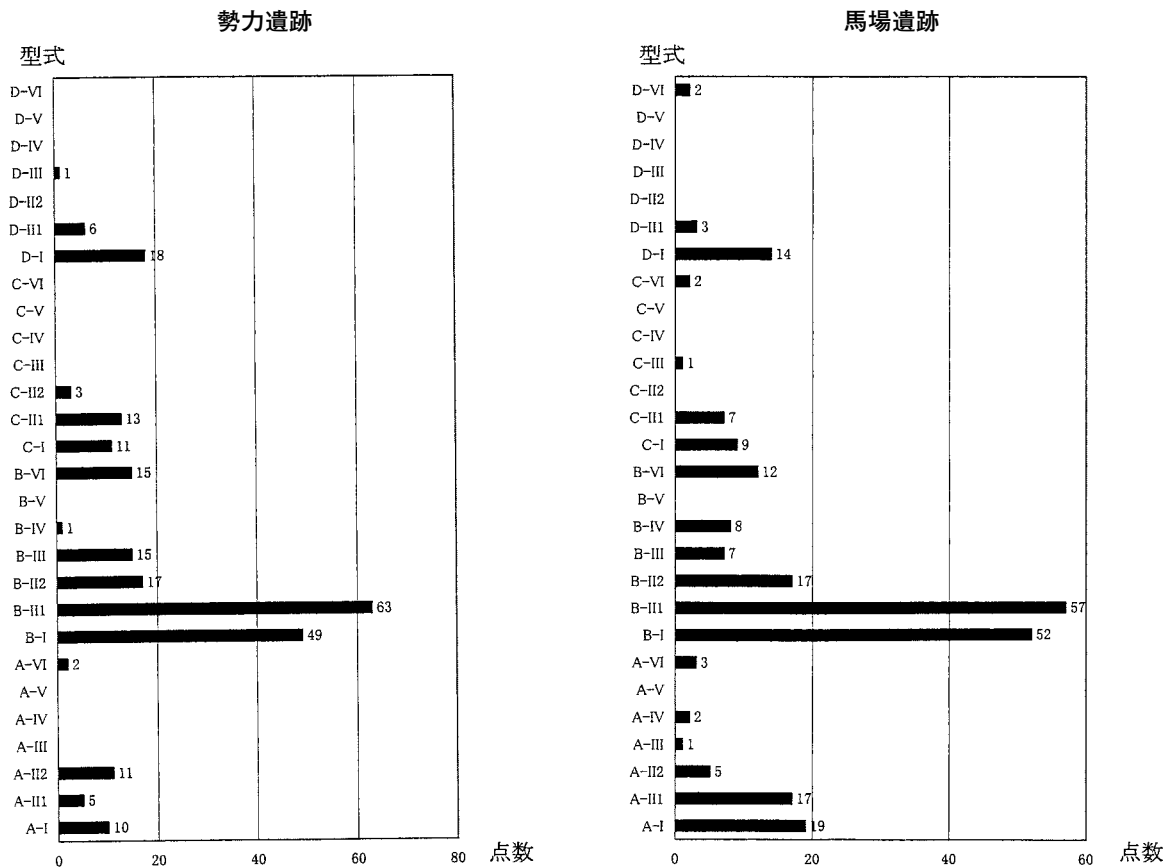


図6 型式別石鏃点数

表1 佐藤忠邦氏採集石器觀察表 勢力遺跡

番号	出土地点	器種	石類分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
1	勢力東上	石鏃	A-I	2.6	2.5	3.8	Sa	
2	勢力東上	石鏃	A-I	1.7	1.5	0.6	Sa	
3	勢力東上	石鏃	A-I	1.5	1.6	0.9	Sa	
4	勢力東上	石鏃	A-I	3.3	3.1	7.9	Sa	
5	勢力東上	石鏃	A-I	2.5	2.0	1.9	Sa	
6	勢力西上	石鏃	A-I	1.9	1.7	1.3	Sa	
7	勢力東上	石鏃	A-I	2.9	(2.4)	(3.2)	Sa	基部欠損
8	勢力東上	石鏃	A-I	(2.1)	1.9	(1.4)	Sa	先端部欠損
9	勢力東上	石鏃	A-I	(3.3)	3.6	(10.3)	Sa	先端部欠損
10	勢力東上	石鏃	A-I	(2.2)	2.1	(1.2)	Sa	先端部欠損
11	勢力東上	石鏃	A-II 1	2.2	2.3	1.8	Sa	
12	勢力東上	石鏃	A-II 1	1.8	1.6	0.8	Sa	
13	勢力東上	石鏃	A-II 1	1.6	1.4	0.5	Sa	
14	勢力東上	石鏃	A-II 1	2.4	(2.1)	(1.7)	Sa	基部欠損
15	勢力東上	石鏃	A-II 1	(2.5)	(2.7)	(3.7)	Sa	先端部・基部欠損
16	勢力西上	石鏃	A-II 2	2.2	1.9	0.9	Sa	
17	勢力東上	石鏃	A-II 2	2.9	(2.1)	(1.9)	Sa	基部欠損
18	勢力東上	石鏃	A-II 2	2.2	(1.9)	(1.2)	Sa	基部欠損
19	勢力東上	石鏃	A-II 2	2.7	(1.9)	(1.6)	Sa	基部欠損
20	勢力東上	石鏃	A-II 2	2.6	(1.9)	(2.0)	Sa	基部欠損
21	勢力東上	石鏃	A-II 2	(1.9)	(2.0)	(1.3)	Sa	先端部・基部欠損
22	勢力東上	石鏃	A-II 2	(2.1)	(2.4)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
23	勢力東上	石鏃	A-II 2	(2.7)	2.4	(2.6)	Sa	先端部欠損
24	勢力東上	石鏃	A-II 2	(1.6)	1.6	(0.8)	Sa	先端部欠損
25	勢力東上	石鏃	A-II 2	(1.5)	1.9	(1.2)	Sa	先端部欠損
26	勢力西上	石鏃	A-II 2	(3.2)	(3.0)	(4.4)	Sa	先端部・基部欠損
27	勢力東上	石鏃	A-IV	(3.1)	2.2	(3.3)	Sa	先端部欠損
28	勢力西上	石鏃	A-IV	(3.5)	2.3	(3.3)	Sa	先端部欠損
29	勢力西上	石鏃	B-I	2.7	1.7	1.6	Sa	
30	勢力西上	石鏃	B-I	2.8	1.7	2.1	Sa	
31	勢力東上	石鏃	B-I	2.5	1.8	1.6	Sa	
32	勢力東上	石鏃	B-I	3.5	2.1	4.6	Sa	
33	勢力東上	石鏃	B-I	2.5	1.9	1.3	Sa	
34	勢力東上	石鏃	B-I	2.0	1.5	1.0	Sa	
35	勢力東上	石鏃	B-I	2.3	1.6	1.5	Sa	
36	勢力西上	石鏃	B-I	2.4	1.8	2.0	Sa	
37	勢力西上	石鏃	B-I	2.4	2.0	1.8	Sa	
38	勢力西上	石鏃	B-I	2.7	2.1	3.3	Sa	
39	勢力西上	石鏃	B-I	2.1	(1.6)	(1.4)	Sa	基部欠損
40	勢力東上	石鏃	B-I	2.4	(1.3)	(0.9)	Sa	基部欠損
41	勢力東上	石鏃	B-I	2.6	(1.2)	(1.6)	Sa	基部欠損
42	勢力東上	石鏃	B-I	2.5	(1.5)	(1.8)	Sa	基部欠損
43	勢力東上	石鏃	B-I	2.6	(1.9)	(1.5)	Sa	基部欠損
44	勢力西上	石鏃	B-I	(2.0)	(1.6)	(1.0)	Sa	先端部・基部欠損
45	勢力東上	石鏃	B-I	(2.8)	(1.8)	(2.3)	Sa	先端部・基部欠損
46	勢力東上	石鏃	B-I	(2.6)	(1.7)	(1.5)	Sa	先端部・基部欠損
47	勢力東上	石鏃	B-I	(2.9)	(1.6)	(2.0)	Sa	先端部・基部欠損
48	勢力東上	石鏃	B-I	(2.1)	(1.8)	(1.3)	Sa	先端部・基部欠損
49	勢力東上	石鏃	B-I	(2.2)	(1.9)	(1.9)	Sa	先端部・基部欠損
50	勢力東上	石鏃	B-I	(3.4)	(2.0)	(4.7)	Sa	先端部・基部欠損
51	勢力東上	石鏃	B-I	(1.8)	(1.5)	(1.2)	Sa	先端部・基部欠損
52	勢力東上	石鏃	B-I	(2.0)	(1.9)	(1.1)	Sa	先端部・基部欠損
53	勢力上	石鏃	B-I	(2.0)	(2.0)	(2.1)	Sa	先端部欠損
54	勢力西上	石鏃	B-I	(1.6)	1.5	(0.8)	Sa	先端部欠損
55	勢力西上	石鏃	B-I	(3.3)	2.1	(2.9)	Sa	先端部欠損
56	勢力東上	石鏃	B-I	(2.0)	1.5	(1.3)	Sa	先端部欠損
57	勢力東上	石鏃	B-I	(2.4)	1.6	(0.9)	Sa	先端部欠損
58	勢力東上	石鏃	B-I	(1.8)	1.7	(1.8)	Sa	先端部欠損
59	勢力東上	石鏃	B-I	(2.8)	2.1	(3.2)	Sa	先端部欠損
60	勢力東上	石鏃	B-I	(3.1)	1.9	(2.9)	Sa	先端部欠損
61	勢力東上	石鏃	B-I	(2.7)	1.4	(1.6)	Sa	先端部欠損
62	勢力東上	石鏃	B-I	(2.6)	1.7	(1.8)	Sa	先端部欠損
63	勢力東上	石鏃	B-I	(3.8)	2.2	(4.0)	Sa	先端部欠損
64	勢力東上	石鏃	B-I	(2.6)	1.9	(2.4)	Sa	先端部欠損
65	勢力東上	石鏃	B-I	(2.1)	2.1	(3.0)	Sa	先端部欠損
66	勢力東上	石鏃	B-I	(2.8)	1.9	(2.1)	Sa	先端部欠損
67	勢力東上	石鏃	B-I	(2.7)	2.2	(2.3)	Sa	先端部欠損
68	勢力東上	石鏃	B-I	(2.3)	1.4	(1.7)	Sa	先端部欠損
69	勢力東上	石鏃	B-I	(2.7)	1.5	(2.1)	Sa	先端部欠損
70	勢力東上	石鏃	B-I	(2.0)	1.6	(1.3)	Sa	先端部欠損
71	勢力東上	石鏃	B-I	(2.7)	1.6	(2.0)	Sa	先端部欠損
72	勢力東上	石鏃	B-I	(2.1)	2.0	(1.6)	Sa	先端部欠損
73	勢力東上	石鏃	B-I	(1.9)	1.6	(1.0)	Sa	先端部欠損
74	勢力西上	石鏃	B-I	(2.5)	2.3	(2.2)	Sa	先端部欠損
75	勢力西上	石鏃	B-I	(2.4)	1.6	(1.7)	Sa	先端部欠損
76	勢力東上	石鏃	B-I	(3.2)	(2.3)	(3.6)	Sa	先端部・基部欠損
77	勢力東上	石鏃	B-I	(2.2)	(1.4)	(1.1)	Sa	先端部・基部欠損
78	勢力西上	石鏃	B-II 1	2.7	1.6	2.1	Sa	
79	勢力西上	石鏃	B-II 1	2.5	1.7	2.1	Sa	
80	勢力東上	石鏃	B-II 1	2.9	1.6	2.0	Sa	
81	勢力東上	石鏃	B-II 1	3.6	2.1	4.4	Sa	
82	勢力東上	石鏃	B-II 1	2.7	1.4	1.4	Sa	
83	勢力東上	石鏃	B-II 1	3.6	1.7	2.8	Sa	
84	勢力東上	石鏃	B-II 1	2.4	1.4	1.2	Sa	
85	勢力東上	石鏃	B-II 1	2.3	1.1	1.2	Sa	
86	勢力西上	石鏃	B-II 1	2.6	2.0	2.5	Sa	
87	勢力西上	石鏃	B-II 1	2.8	1.8	2.9	Sa	
88	勢力西上	石鏃	B-II 1	2.7	(1.9)	(1.9)	Sa	基部欠損
89	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.4)	1.7	(2.7)	Sa	基部欠損
90	勢力東上	石鏃	B-II 1	2.7	(2.2)	(2.4)	Sa	基部欠損
91	勢力西上	石鏃	B-II 1	3.0	(2.2)	(4.1)	Sa	基部欠損
92	勢力西上	石鏃	B-II 1	2.1	(1.3)	(0.8)	Sa	基部欠損
93	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.5)	2.1	(2.0)	Sa	先端部欠損
94	勢力西上	石鏃	B-II 1	(2.9)	(1.6)	(1.9)	Sa	先端部・基部欠損
95	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.4)	(2.0)	(2.2)	Sa	先端部・基部欠損
96	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.2)	(1.5)	(2.0)	Sa	先端部・基部欠損
97	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.3)	(1.9)	(3.0)	Sa	先端部・基部欠損
98	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.3)	(1.6)	(1.3)	Sa	先端部・基部欠損
99	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.2)	2.0	(4.3)	Sa	先端部・基部欠損
100	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.0)	(1.6)	(1.1)	Sa	先端部・基部欠損

番号	出土地点	器種	石類分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
101	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.9)	(2.3)	(2.5)	Sa	先端部・基部欠損
102	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.2)	(2.0)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
103	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.7)	(1.9)	(2.1)	Sa	先端部・基部欠損
104	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.9)	(2.0)	(2.4)	Sa	先端部・基部欠損
105	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.3)	(2.0)	(2.2)	Sa	先端部・基部欠損
106	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.0)	(1.1)	(0.9)	Sa	先端部・基部欠損
107	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.6)	(1.7)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
108	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.0)	1.6	(1.5)	Sa	先端部・基部欠損
109	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.9)	(1.7)	(1.9)	Sa	先端部・基部欠損
110	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.6)	(2.1)	(2.1)	Sa	先端部・基部欠損
111	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.6)	(1.5)	(1.5)	Sa	先端部・基部欠損
112	勢力東上	石鏃	B-IV	(3.5)	1.5	(2.5)	Sa	先端部・基部欠損
113	勢力上	石鏃	B-II 1	(2.7)	1.5	(1.9)	Sa	先端部欠損
114	勢力上	石鏃	B-II 1	(2.9)	3.0	(6.4)	Sa	先端部欠損
115	勢力上	石鏃	B-II 1	(2.4)	1.4	(1.4)	Sa	先端部欠損
116	勢力上	石鏃	B-II 1	(2.6)	1.6	(1.6)	Sa	先端部欠損
117	勢力西上	石鏃	B-II 1	(2.4)	2.2	(2.7)	Sa	先端部欠損
118	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.6)	1.8	(3.5)	Sa	先端部・基部欠損
119	勢力東上	石鏃	B-II 1	(1.6)	1.5	(0.7)	Sa	先端部欠損
120	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.3)	1.5	(1.5)	Sa	先端部欠損
121	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.0)	2.1	(3.1)	Sa	先端部欠損
122	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.8)	1.7	(1.6)	Sa	先端部欠損
123	勢力東上	石鏃	B-II 1	(4.2)	2.1	(6.9)	Sa	先端部欠損
124	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.9)	2.3	(6.4)	Sa	先端部欠損
125	勢力東上	石鏃	B-II 1	(1.8)	1.9	(2.0)	Sa	先端部欠損
126	勢力東上	石鏃	B-II 1	(1.5)	1.1	(0.6)	Sa	先端部欠損
127	勢力東上	石鏃	B-II 1	(3.5)	2.1	(4.1)	Sa	先端部欠損
128	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.5)	1.9	(1.6)	Sa	先端部欠損
129	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.2)	1.7	(0.8)	Sa	先端部欠損
130	勢力東上	石鏃	B-II 1	(1.9)	1.7	(1.7)	Sa	先端部欠損
131	勢力東上	石鏃	B-II 1	(1.8)	1.9	(2.2)	Sa	先端部欠損
132	勢力東上	石鏃	B-II 1	(1.7)	1.7	(1.2)	Sa	先端部欠損
133	勢力西上	石鏃	B-II 1	(1.9)	1.8	(1.1)	Sa	先端部欠損
134	勢力西上	石鏃	B-II 1	(2.0)	1.8	(1.1)	Sa	先端部欠損
135	勢力西上	石鏃	B-II 1	(1.2)	1.7	(0.7)	Sa	先端部欠損
136	勢力西上	石鏃	B-II 1	(1.4)	1.6	(0.7)	Sa	先端部欠損
137	勢力東上	石鏃	B-II 1	(2.6)	(1.7)	(2.2)	Sa	先端部・基部欠損
138	勢力西上	石鏃	B-II 1	(2.6)	(1.8)	(2.3)	Sa	先端部・基部欠損
139	勢力西上	石鏃	B-II 1	(2.8)	(1.8)	(3.2)	Sa	先端部・基部欠損
140	勢力西上	石鏃	B-II 1	(2.1)	(1.7)	(1.2)	Sa	先端部・基部欠損
141	勢力東上	石鏃	B-II 2	2.0	1.7	0.8	Sa	
142	勢力上	石鏃	B-II 2	2.0	(1.3)	(0.6)	Sa	基部欠損
143	勢力東上	石鏃	B-II 2	2.3	(1.5)	(0.9)	Sa	基部欠損
144	勢力東上	石鏃	B-II 2	2.4	(1.4)	(1.0)	Sa	基部欠損
145	勢力東上	石鏃	B-II 2	2.4	(1.6)	(1.1)	Sa	基部欠損
146	勢力東上	石鏃	B-II 2	2.6	(1.7)	(1.5)	Sa	基部欠損
147	勢力東上	石鏃	B-II 2	2.9	(2.1)	(2.5)	Sa	基部欠損
148	勢力西上	石鏃	B-II 2	(2.6)	(1.9)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
149	勢力東上	石鏃	B-II 2	(2.3)	(1.9)	(1.5)	Sa	先端部・基部欠損
150	勢力東上	石鏃	B-II 2	(2.7)	(1.9)	(2.5)	Sa	先端部・基部欠損
151	勢力東上	石鏃	B-II 2	(3.0)	(2.1)	(2.2)	Sa	先端部・基部欠損
152	勢力東上	石鏃	B-II 2	(2.1)	(1.5)	(0.8)	Sa	先端部・基部欠損
153	勢力東上	石鏃	B-II 2	(1.7)	1.5	(1.0)	Sa	先端部欠損
154	勢力東上	石鏃	B-II 2	(2.7)	1.2	(0.8)	Sa	先端部欠損
155	勢力東上	石鏃	B-II 2	(2.1)	2.0	(1.9)	Sa	先端部欠損
156	勢力東上	石鏃	B-II 2	(1.8)	1.8	(1.0)	Sa	先端部欠損
157	勢力西上	石鏃	B-II 2	(2.4)	(2.0)	(1.5)	Sa	先端部・基部欠損
158	勢力上	石鏃	B-III	3.1	1.6	2.3	Sa	
159	勢力東上	石鏃	B-III	3.1	1.6	1.8	Sa	
160	勢力東上	石鏃	B-III	3.4	2.2	5.2	Sa	
161	勢力東上	石鏃	B-III	3.5	2.2	3.6	Sa	
162	勢力東上	石鏃	B-III	(2.5)	1.8	(2.1)	Sa	先端部・基部欠損
163	勢力東上	石鏃	B-III					

番号	出土地点	器種	石鏃分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
201	勢力西上	石鏃	C-II	2.3	2.0	1.7	Sa	
202	勢力西上	石鏃	C-II	2.7	1.8	2.0	Sa	
203	勢力東上	石鏃	C-II	1.8	(1.3)	(0.9)	Sa	基部欠損
204	勢力東上	石鏃	C-II	(2.7)	(1.5)	(1.6)	Sa	先端部・基部欠損
205	勢力東上	石鏃	C-II	(1.9)	(1.6)	(1.0)	Sa	先端部・基部欠損
206	勢力東上	石鏃	C-II	(2.8)	1.6	(1.7)	Sa	先端部・基部欠損
207	勢力東上	石鏃	C-II	(2.0)	1.5	(1.5)	Sa	先端部欠損
208	勢力東上	石鏃	C-II	(2.0)	1.2	(0.8)	Sa	先端部欠損
209	勢力東上	石鏃	C-II	(2.2)	1.4	(1.2)	Sa	先端部欠損
210	勢力東上	石鏃	C-II	(2.8)	1.6	(1.7)	Sa	先端部欠損
211	勢力東上	石鏃	C-II	(2.1)	2.4	(2.2)	Sa	先端部欠損
212	勢力東上	石鏃	C-II	(3.1)	2.2	(4.4)	Sa	先端部欠損
213	勢力東上	石鏃	C-II	3.0	1.5	3.2	Sa	
214	勢力東上	石鏃	C-II	(3.6)	2.2	(4.4)	Sa	先端部・基部欠損
215	勢力東上	石鏃	C-II	(1.9)	1.8	(1.6)	Sa	先端部欠損
216	勢力東上	石鏃	C-不明	(1.9)	(1.3)	(0.9)	Sa	基部欠損
217	勢力西上	石鏃	C-不明	(2.3)	(1.5)	(1.6)	Sa	先端部・基部欠損
218	勢力上	石鏃	D-I	3.5	1.5	2.7	Sa	
219	勢力西上	石鏃	D-I	3.2	1.4	1.8	Sa	
220	勢力西上	石鏃	D-I	4.5	2.1	7.6	Sa	
221	勢力東上	石鏃	D-I	2.3	1.1	0.8	Sa	
222	勢力東上	石鏃	D-I	2.6	1.1	1.0	Sa	
223	勢力西上	石鏃	D-I	3.3	(1.4)	(2.4)	Sa	基部欠損
224	勢力東上	石鏃	D-I	(2.6)	1.5	(1.0)	Sa	先端部欠損
225	勢力東上	石鏃	D-I	(4.0)	1.6	(4.0)	Sa	先端部欠損
226	勢力東上	石鏃	D-I	(2.2)	1.3	(1.1)	Sa	先端部欠損
227	勢力東上	石鏃	D-I	(3.1)	1.6	(2.8)	Sa	先端部欠損
228	勢力東上	石鏃	D-I	(2.2)	1.3	(1.2)	Sa	先端部欠損
229	勢力東上	石鏃	D-I	(3.0)	1.4	(2.0)	Sa	先端部欠損
230	勢力東上	石鏃	D-I	(2.1)	1.2	(1.2)	Sa	先端部欠損
231	勢力東上	石鏃	D-I	(2.8)	1.4	(2.4)	Sa	先端部欠損
232	勢力東上	石鏃	D-I	(2.5)	1.4	(1.5)	Sa	先端部欠損
233	勢力東上	石鏃	D-I	(1.8)	1.1	(1.1)	Sa	先端部欠損
234	勢力東上	石鏃	D-I	3.1	(1.2)	(1.9)	Sa	側縁欠損
235	勢力東上	石鏃	D-I	2.9	(1.8)	(2.1)	Sa	側縁欠損
236	勢力東上	石鏃	D-II	(2.9)	(1.3)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
237	勢力東上	石鏃	D-II	(3.6)	(2.0)	(4.1)	Sa	先端部・基部欠損
238	勢力東上	石鏃	D-II	(2.4)	1.4	(1.6)	Sa	先端部欠損
239	勢力東上	石鏃	D-II	(2.6)	1.3	(1.4)	Sa	先端部欠損
240	勢力西上	石鏃	D-II	(2.2)	1.1	(0.9)	Sa	先端部欠損
241	勢力西上	石鏃	D-II	(3.0)	1.3	(1.8)	Sa	先端部欠損
242	勢力東上	石鏃	D-III	(4.7)	1.4	(3.9)	Sa	先端部・基部欠損
243	勢力上	石鏃	D-III	(2.6)	1.1	(1.4)	Sa	先端部・基部欠損
244	勢力東上	石鏃	D-IV	(3.3)	1.5	(2.0)	Sa	先端部欠損
245	勢力東上	石鏃	D-IV	(3.9)	1.1	(2.6)	Sa	先端部欠損
246	勢力東上	石鏃	D-不明	(3.3)	(1.4)	(2.2)	Sa	先端部・基部欠損
247	勢力西上	石鏃	不明	(1.8)	(1.3)	(0.8)	Sa	先端部・基部欠損
248	勢力東上	石鏃	不明	(1.9)	(1.1)	(0.6)	Sa	先端部欠損
249	勢力東上	石鏃	不明	(2.9)	(1.4)	(1.3)	Sa	先端部・基部欠損
250	勢力東上	石鏃	不明	(1.9)	(1.3)	(1.0)	Sa	先端部・基部欠損
251	勢力上	石鏃	不明	(4.9)	(2.4)	(9.7)	Sa	基部欠損
252	勢力西上	石鏃	不明	(3.0)	(1.9)	(2.2)	Sa	基部欠損
253	勢力西上	石鏃	不明	(1.8)	1.2	(0.4)	Sa	基部欠損
254	勢力東上	石鏃	不明	(1.8)	(1.0)	(0.4)	Sa	基部欠損
255	勢力東上	石鏃	不明	(1.7)	(1.2)	(0.5)	Sa	基部欠損
256	勢力東上	石鏃	不明	(2.1)	(1.1)	(0.4)	Sa	基部欠損
257	勢力東上	石鏃	不明	(2.4)	(1.7)	(1.6)	Sa	基部欠損
258	勢力東上	石鏃	不明	(2.1)	(1.3)	(1.0)	Sa	基部欠損
259	勢力東上	石鏃	不明	(2.9)	(1.9)	(2.4)	Sa	基部欠損
260	勢力東上	石鏃	不明	(2.0)	(1.4)	(1.2)	Sa	基部欠損
261	勢力東上	石鏃	不明	(5.4)	2.6	(14.0)	Sa	先端部欠損
262	勢力西上	石鏃	不明	(3.7)	(2.2)	(4.9)	Sa	先端部・基部欠損
263	勢力東上	石鏃	不明	(3.0)	(1.6)	(2.9)	Sa	基部欠損
264	勢力東上	石鏃	不明	(2.2)	(1.3)	(0.7)	Sa	基部欠損
265	勢力東上	石鏃	不明	(1.8)	(1.1)	(0.7)	Sa	基部欠損
266	勢力東上	石鏃	不明	(3.1)	(2.3)	(2.7)	Sa	基部欠損
267	勢力西上	石鏃	不明	(3.3)	(2.1)	(2.3)	Sa	基部欠損
268	勢力東上	石鏃	不明	(1.5)	1.2	(0.4)	Sa	基部欠損
269	勢力東上	石鏃	不明	(2.0)	(1.5)	(1.2)	Sa	先端部・基部欠損
270	勢力東上	石鏃未製品		2.2	1.6	0.9	Sa	
271	勢力東上	石鏃未製品		3.4	2.2	5.4	Sa	
272	勢力東上	石鏃未製品		2.4	1.7	1.8	Sa	
273	勢力東上	石鏃未製品		2.5	1.9	2.6	Sa	
274	勢力東上	石鏃未製品		2.7	1.8	測定不能	Sa	
275	勢力東上	石鏃未製品		2.8	1.9	測定不能	Sa	
276	勢力東上	石鏃未製品		(3.4)	1.9	(2.9)	Sa	先端部欠損
277	勢力東上	石鏃未製品		(3.0)	(2.1)	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
278	勢力東上	石鏃未製品		(2.7)	(2.3)	測定不能	Sa	基部欠損
279	勢力東上	石鏃未製品		3.1	(1.7)	(3.1)	Sa	一部欠損
280	勢力西上	石鏃	不明	(3.0)	(2.1)	(8.1)	Sa	先端部欠損
281	勢力東上	石鏃未製品		2.3	1.5	1.3	Sa	
282	勢力東上	石鏃未製品		3.8	1.4	4.5	Sa	
283	勢力東上	石鏃未製品		2.2	1.4	0.8	Sa	
284	勢力東上	石鏃未製品		3.4	2.2	4.8	Sa	
285	勢力東上	石鏃未製品		1.9	2.1	測定不能	Sa	
286	勢力東上	石鏃未製品		2.9	(1.7)	測定不能	Sa	側面欠損
287	勢力東上	石鏃未製品		(3.2)	(1.2)	(1.0)	Sa	先端部・基部欠損
288	勢力東上	石鏃未製品		(3.4)	1.9	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
289	勢力東上	石鏃未製品		(3.3)	(2.1)	測定不能	Sa	基部欠損
290	勢力東上	石鏃未製品		2.8	(2.1)	(1.8)	Sa	一部欠損
291	勢力東上	石鏃		3.5	1.5	3.3	Sa	
292	勢力東上	石鏃		(2.7)	(1.7)	(2.1)	Sa	基部欠損
293	勢力東上	石鏃		(4.0)	(2.4)	(4.8)	Sa	基部欠損
294	勢力東上	石鏃		(10.3)	3.9	(47.9)	Sa	基部欠損
295	勢力西上	石鏃		(6.1)	2.8	(28.2)	Sa	基部欠損
296	勢力西上	石鏃		(3.3)	2.0	(4.4)	Sa	基部欠損

番号	出土地点	器種	石鏃分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
297	勢力東上	石槍		3.6	1.8	3.2	Sa	小ナイフ状
298	勢力東上	石槍		(2.4)	(1.9)	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
299	勢力東上	石槍		(3.2)	(2.3)	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
300	勢力東上	石槍		(3.3)	(2.1)	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
301	勢力東上	石槍		(5.4)	2.5	(10.1)	Sa	先端部・基部欠損
302	勢力西上	石槍		(4.1)	2.3	(10.3)	Sa	先端部・基部欠損
303	勢力東上	石槍		(3.6)	(1.5)	(2.4)	Sa	先端部・基部欠損
304	勢力西上	石槍		(2.6)	1.3	(1.7)	Sa	先端部・基部欠損、小ナイフ状
305	勢力東上	石槍		(4.9)	2.1	(15.6)	Sa	先端部欠損
306	勢力東上	石槍		(3.3)	2.9	(11.4)	Sa	先端部欠損
307	勢力東上	石槍		(3.4)	2.7	(15.3)	Sa	先端部欠損
308	勢力西上	石槍		(4.1)	2.7	(16.0)	Sa	先端部欠損
309	勢力東上	石槍		(2.5)	(2.5)	(7.5)	Sa	先端部・基部欠損
310	勢力西上	石槍		(3.5)	(3.3)	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
311	勢力西上	石槍		(3.4)	3.1	(12.9)	Sa	先端部・基部欠損
312	勢力西上	石槍		(4.8)	(2.3)	(11.0)	Sa	先端部・基部欠損
313	勢力東上	石槍		3.5	2.1	4.0	Sa	ナイフ状
314	勢力東上	石鏃		(3.5)	(1.0)	(1.7)	Sa	基部欠損
315	勢力西上	石鏃		2.3	(1.8)	(1.5)	Sa	基部欠損
316	勢力東上	石鏃		(2.8)	(1.1)	測定不能	Sa	基部欠損
317	勢力東上	石鏃		(3.0)	2.1	(3.5)	Sa	先端部欠損
318	勢力東上	石鏃		(3.8)	2.2	(4.9)	Sa	先端部欠損
319	勢力東上	石鏃		(2.3)	1.5	(1.3)	Sa	先端部欠損
320	勢力西上	石鏃		(2.1)	1.7	(1.3)	Sa	先端部欠損
321	勢力西上	石鏃		(3.2)	1.4	(1.5)	Sa	先端部欠損
322	勢力西上	石鏃		(3.5)	2.3	(3.0)	Sa	先端部欠損
323	勢力西上	石鏃		(2.9)	2.3	(2.2)	Sa	先端部欠損
324	勢力西上	石鏃		(1.7)	1.3	(0.7)	Sa	先端部欠損
325	勢力西上	石鏃		(3.0)	1.5	(2.7)	Sa	先端部欠損
326	勢力西上	石鏃		(2.2)	1.8	(1.8)	Sa	先端部欠損
327	勢力西上	石鏃		(2.9)	1.7	(2.4)	Sa	先端部欠損
328	勢力西上	石鏃		(2.8)	2.6	(5.2)	Sa	先端部欠損
329	勢力東上	石鏃		(4.3)	2.3	(4.5)	Sa	先端部欠損
330	勢力東上	石鏃		(3.6)	2.8	(5.6)	Sa	先端部欠損
331	勢力東上	石鏃		2.9	1.2	1.0	Sa	先端部欠損
332	勢力東上	石鏃		(3.1)	1.5	(2.1)	Sa	先端部欠損
333	勢力東上	石鏃		(2.6)	1.2	(1.2)	Sa	先端部欠損
334	勢力東上	石鏃		(3.3)	1.8	測定不能	Sa	先端部欠損
335	勢力東上	石鏃		(4.7)	(3.0)	(6.6)	Sa	先端部・基部欠損
336	勢力東上	石鏃		(2.6)	(2.5)	(2.5)	Sa	先端部・基部欠損
337	勢力東上	石鏃		(2.6)	1.5	(1.6)	Sa	先端部・基部欠損
338	勢力東上	石鏃		(1.9)	(0.9)	(0.7)	Sa	先端部・基部欠損
339	勢力東上	石鏃		(1.2)	(1.4)	(0.5)	Sa	先端部・基部欠損
340	勢力東上	石鏃		(1.7)	(1.0)	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
341	勢力東上	石鏃		(2.8)	(0.9)	測定不能	Sa	先端部・基部欠損
342	勢力東上	石鏃		(3.2)	(3.6)	(6.7)	Sa	先端部・基部欠損
343	勢力西上	石鏃		(2.6)	2.0	(2.5)	Sa	先端部・基部欠損
344	勢力西上	石鏃		(3.1)	(1.3)	(1.3)	Sa	先端部・基部欠損
345	勢力西上	楕形石器		3.5	2.5	12.1	Sa	
346	勢力東上	スクレイパー		2.9	3.4	12.3	Sa	
347	勢力東上	スクレイパー		2.1	2.9	8.9	Sa	
348	勢力東上	スクレイパー		2.2	(3.8)	(5.0)	Sa	約1/3欠損
349	勢力東上	RF		1.2	2.6	1.6	Sa	
350	勢力東上	RF		(1.7)	4.1	(3.9)	Sa	一部欠損
351	勢力東上	打製石砲丁		4.0	(3.1)	(9.9)	Sa	約2/3欠損
352	勢力東上	打製石砲丁		4.2	(5.1)	(29.8)	P-Sc	約1/2欠損
353	勢力西上	打製石砲丁		5.2	(4.7)	(21.7)	Sa	約3/4欠損
354	勢力上	大型蛤刃石斧		(9.9)	(7.6)	(350.0)	C-Sc	基部欠損
355	勢力上	大型蛤刃石斧		(6.9)	6.6	(300.0)	Sc	刃部2/3以上欠損
356	勢力東上	大型蛤刃石斧		(3.4)	(2.0)	測定不能	Sa	基部の一部欠損
357	勢力東上	柱状片刃石斧		(3.2)	(1.1)	(9.7)	C-Sc	基部欠損、縦割
358	勢力東上	柱状片刃石斧		(4.7)	0.8	(10.4)	C-Sc	基部欠損、縦割
359	勢力東上	柱状片刃石斧		(5.3)	(1.7)	(14.2)	Sa	刃部の一部欠損
360	勢力西上	柱状片刃石斧		(7.3)	1.4	(39.2)	Sc	基部欠損
361	勢力東上	扁平片刃石斧		(2.8)	3.2	(7.0)	C-Sc	基部欠損
362	勢力上	環状石斧					Sa	
363	勢力東上	剥片		3.3	1.4	3.0	Sa	
364	勢力東上	剥片		2.6	1.3	0.9		

表2 佐藤忠邦氏採集石器観察表 馬場遺跡

番号	器種	石鏃分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
1	石鏃	A-I	2.1	1.7	1.6	Sa	
2	石鏃	A-I	2.0	1.9	1.1	Sa	
3	石鏃	A-I	1.5	1.1	0.3	Sa	
4	石鏃	A-I	(2.0)	(1.9)	(2.1)	Sa	
5	石鏃	A-I	(1.9)	2.6	(2.6)	Sa	
6	石鏃	A-I	2.4	(1.9)	(1.2)	Sa	
7	石鏃	A-I	2.4	(2.1)	(2.1)	Sa	
8	石鏃	A-I	2.0	1.9	1.3	Sa	
9	石鏃	A-I	1.7	1.5	0.2	Sa	
10	石鏃	A-I	3.1	3.0	6.3	Sa	
11	石鏃	A-I	2.1	1.6	1.6	Sa	
12	石鏃	A-I	2.4	2.1	2.2	Sa	
13	石鏃	A-I	1.8	(1.2)	(0.5)	Sa	先端部・基部欠損
14	石鏃	A-I	(2.2)	2.1	(1.7)	Sa	先端部欠損
15	石鏃	A-I	(3.1)	3.3	(6.0)	Sa	先端部欠損
16	石鏃	A-I	2.4	(1.9)	(1.7)	Sa	基部欠損
17	石鏃	A-I	2.2	(1.7)	(1.0)	Sa	基部欠損
18	石鏃	A-I	2.5	(2.2)	(2.3)	Sa	基部欠損
19	石鏃	A-I	2.0	(1.6)	(0.8)	Sa	基部欠損
20	石鏃	A-II	3.2	2.2	3.5	Sa	
21	石鏃	A-II	2.6	1.9	2.8	Sa	
22	石鏃	A-II	(3.0)	1.8	(1.7)	Sa	
23	石鏃	A-II	2.5	2.3	3.7	Sa	
24	石鏃	A-II	2.3	2.2	1.7	Sa	
25	石鏃	A-II	2.2	1.9	1.4	Sa	
26	石鏃	A-II	2.3	2.0	1.6	Sa	
27	石鏃	A-II	2.0	1.7	1.3	Sa	
28	石鏃	A-II	2.6	2.1	2.0	Sa	
29	石鏃	A-II	2.5	2.2	2.5	Sa	
30	石鏃	A-II	2.3	1.9	1.6	Sa	
31	石鏃	A-II	2.0	2.1	1.3	Sa	
32	石鏃	A-II	2.6	2.3	2.1	Sa	
33	石鏃	A-II	2.2	1.8	1.2	Sa	
34	石鏃	A-II	2.2	(1.9)	(1.0)	Sa	基部欠損
35	石鏃	A-II	2.3	(1.9)	(1.4)	Sa	基部欠損
36	石鏃	A-II	1.3	(1.6)	(0.2)	Sa	基部欠損
37	石鏃	A-II	2.1	1.6	0.9	Sa	
38	石鏃	A-II	(2.5)	(2.1)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
39	石鏃	A-II	(2.2)	2.3	(1.7)	Sa	先端部欠損
40	石鏃	A-II	2.4	(1.9)	(1.4)	Sa	基部欠損
41	石鏃	A-II	2.2	(1.9)	(1.3)	Sa	基部欠損
42	石鏃	A-III	2.6	2.0	1.9	Sa	
43	石鏃	A-IV	3.5	2.6	3.9	Sa	
44	石鏃	A-IV	2.2	1.5	1.0	Sa	
45	石鏃	A-VI	1.9	1.5	0.7	Sa	
46	石鏃	A-VI	(1.4)	1.1	(0.2)	Sa	先端部欠損
47	石鏃	A-VI	3.0	2.0	2.3	Sa	菱形
48	石鏃	A-不明	(2.7)	2.3	(2.7)	Sa	基部欠損
49	石鏃	B-I	2.5	1.6	1.6	Sa	
50	石鏃	B-I	3.0	1.9	2.3	Sa	
51	石鏃	B-I	2.7	1.8	1.8	Sa	
52	石鏃	B-I	2.1	1.3	0.6	Sa	
53	石鏃	B-I	4.7	3.0	9.5	Sa	
54	石鏃	B-I	1.8	1.2	0.3	Sa	
55	石鏃	B-I	(2.8)	2.0	(2.2)	Sa	
56	石鏃	B-I	(1.2)	1.1	(0.2)	Sa	
57	石鏃	B-I	(2.9)	2.0	(2.5)	Sa	
58	石鏃	B-I	(3.2)	(1.7)	(2.1)	Sa	
59	石鏃	B-I	(3.3)	(2.7)	(6.3)	Sa	
60	石鏃	B-I	4.4	2.8	5.2	Sa	
61	石鏃	B-I	3.1	2.0	3.0	Sa	
62	石鏃	B-I	2.0	1.4	0.5	Sa	
63	石鏃	B-I	3.4	1.9	3.4	Sa	
64	石鏃	B-I	3.2	1.9	3.1	Sa	
65	石鏃	B-I	3.4	2.3	4.2	Sa	
66	石鏃	B-I	3.0	1.7	1.7	Sa	
67	石鏃	B-I	3.3	2.1	3.1	Sa	
68	石鏃	B-I	3.4	2.2	4.9	Sa	
69	石鏃	B-I	2.8	1.7	1.7	Sa	
70	石鏃	B-I	(1.8)	1.9	(1.3)	Sa	先端部欠損
71	石鏃	B-I	(2.9)	(1.5)	(1.6)	Sa	先端部・基部欠損
72	石鏃	B-I	(2.9)	(1.8)	(2.2)	Sa	先端部・基部欠損
73	石鏃	B-I	(2.2)	(1.3)	(0.8)	Sa	先端部・基部欠損
74	石鏃	B-I	(3.7)	(1.9)	(5.0)	Sa	先端部・基部欠損
75	石鏃	B-I	(2.3)	1.4	(1.1)	Sa	先端部欠損
76	石鏃	B-I	(2.1)	1.8	(1.3)	Sa	先端部欠損
77	石鏃	B-I	(1.4)	1.3	(0.7)	Sa	先端部欠損
78	石鏃	B-I	(3.1)	2.1	(2.8)	Sa	先端部欠損
79	石鏃	B-I	(3.1)	2.1	(3.6)	Sa	先端部欠損
80	石鏃	B-I	(2.7)	1.7	(1.3)	Sa	先端部欠損
81	石鏃	B-I	(3.4)	2.2	(4.0)	Sa	先端部欠損
82	石鏃	B-I	(2.7)	1.9	(2.1)	Sa	先端部欠損
83	石鏃	B-I	(3.3)	2.6	(4.2)	Sa	先端部欠損
84	石鏃	B-I	(2.8)	1.7	(1.7)	Sa	先端部欠損
85	石鏃	B-I	(2.4)	2.3	(2.0)	Sa	先端部欠損
86	石鏃	B-I	(2.6)	2.2	(2.7)	Sa	先端部欠損
87	石鏃	B-I	(3.3)	1.8	(2.6)	Sa	先端部欠損
88	石鏃	B-I	(2.4)	2.0	(1.9)	Sa	先端部欠損
89	石鏃	B-I	(2.1)	1.8	(1.7)	Sa	先端部欠損
90	石鏃	B-I	(2.7)	1.7	(2.7)	Sa	先端部欠損
91	石鏃	B-I	(1.1)	1.2	(0.1)	Sa	先端部欠損
92	石鏃	B-I	(2.9)	2.3	(4.4)	Sa	先端部欠損
93	石鏃	B-I	(2.2)	1.7	(1.0)	Sa	先端部欠損
94	石鏃	B-I	(3.4)	2.2	(3.7)	Sa	先端部欠損
95	石鏃	B-I	3.2	(2.0)	(3.2)	Sa	基部欠損
96	石鏃	B-I	3.6	(1.9)	(2.6)	Sa	基部欠損
97	石鏃	B-I	2.5	(1.6)	(1.0)	Sa	基部欠損
98	石鏃	B-I	2.1	(1.4)	(0.6)	Sa	基部欠損
99	石鏃	B-I	(4.3)	(1.9)	(5.1)	Sa	基部欠損
100	石鏃	B-I	2.8	(1.7)	(1.7)	Sa	基部欠損

番号	器種	石鏃分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
101	石鏃	B-II	2.2	1.4	0.7	Sa	
102	石鏃	B-II	3.1	1.6	1.8	Sa	
103	石鏃	B-II	2.7	1.5	1.2	Sa	
104	石鏃	B-II	2.5	1.6	1.4	Sa	
105	石鏃	B-II	2.2	1.5	1.2	Sa	
106	石鏃	B-II	1.9	1.4	0.8	Sa	
107	石鏃	B-II	2.4	1.2	1.0	Sa	
108	石鏃	B-II	(3.3)	(1.9)	(3.1)	Sa	
109	石鏃	B-II	3.5	(2.3)	(3.6)	Sa	
110	石鏃	B-II	(3.8)	2.5	(5.6)	Sa	
111	石鏃	B-II	(3.3)	(2.6)	(4.4)	Sa	
112	石鏃	B-II	2.9	1.6	2.0	Sa	
113	石鏃	B-II	3.0	1.6	1.5	Sa	
114	石鏃	B-II	2.2	1.7	1.0	Sa	
115	石鏃	B-II	2.5	1.7	0.9	Sa	
116	石鏃	B-II	2.7	1.7	1.8	Sa	
117	石鏃	B-II	2.6	1.7	測定不能	Sa	
118	石鏃	B-II	3.4	2.1	3.0	Sa	
119	石鏃	B-II	2.9	1.5	2.5	Sa	
120	石鏃	B-II	(2.9)	1.9	(3.2)	Sa	先端部欠損
121	石鏃	B-II	(2.3)	(1.9)	(1.9)	Sa	先端部・基部欠損
122	石鏃	B-II	(2.0)	(1.7)	(1.5)	Sa	先端部・基部欠損
123	石鏃	B-II	(2.3)	(1.8)	(1.3)	Sa	先端部・基部欠損
124	石鏃	B-II	(3.3)	(2.0)	(2.7)	Sa	先端部・基部欠損
125	石鏃	B-II	(2.6)	(2.0)	(3.5)	Sa	先端部・基部欠損
126	石鏃	B-II	(2.6)	(1.9)	(2.4)	Sa	先端部・基部欠損
127	石鏃	B-II	(3.5)	(2.2)	(3.8)	Sa	先端部・基部欠損
128	石鏃	B-II	(1.9)	1.7	(1.2)	Sa	先端部欠損
129	石鏃	B-II	(1.8)	2.1	(1.4)	Sa	先端部欠損
130	石鏃	B-II	(3.4)	2.0	(4.6)	Sa	先端部欠損
131	石鏃	B-II	(2.3)	2.1	(2.6)	Sa	先端部欠損
132	石鏃	B-II	(3.0)	2.0	(3.5)	Sa	先端部欠損
133	石鏃	B-II	(2.5)	1.9	(1.8)	Sa	先端部欠損
134	石鏃	B-II	(3.5)	1.5	(2.2)	Sa	先端部欠損
135	石鏃	B-II	(3.7)	2.2	(4.3)	Sa	先端部欠損
136	石鏃	B-II	(2.5)	2.6	(2.8)	Sa	先端部欠損
137	石鏃	B-II	(1.5)	1.7	(0.5)	Sa	先端部欠損
138	石鏃	B-II	(2.9)	1.4	(2.1)	Sa	先端部欠損
139	石鏃	B-II	(2.1)	2.1	(1.7)	Sa	先端部欠損
140	石鏃	B-II	(2.7)	1.4	(1.5)	Sa	先端部欠損
141	石鏃	B-II	(2.4)	1.8	(1.8)	Sa	先端部欠損
142	石鏃	B-II	(2.2)	2.1	(2.1)	Sa	先端部欠損
143	石鏃	B-II	(2.7)	1.8	(2.4)	Sa	先端部欠損
144	石鏃	B-II	2.1	1.7	1.5	Sa	先端部欠損
145	石鏃	B-II	(2.1)	1.5	(1.3)	Sa	先端部欠損
146	石鏃	B-II	(3.6)	2.6	測定不能	Sa	先端部欠損
147	石鏃	B-II	(2.5)	1.8	(2.3)	Sa	先端部欠損
148	石鏃	B-II	(2.0)	(1.5)	(1.1)	Sa	先端部・基部欠損
149	石鏃	B-II	(1.9)	1.7	(1.0)	Sa	先端僅かに欠損
150	石鏃	B-II	4.1	(2.1)	(5.1)	Sa	基部欠損
151	石鏃	B-II	3.2	(2.2)	(3.2)	Sa	基部欠損
152	石鏃	B-II	3.5	(1.9)	(2.7)	Sa	基部欠損
153	石鏃	B-II	2.4	(1.4)	(1.0)	Sa	基部欠損
154	石鏃	B-II	1.7	(1.2)	(0.2)	Sa	基部欠損
155	石鏃	B-II	2.3	(1.7)	(1.2)	Sa	基部欠損
156	石鏃	B-II	2.7	(1.8)	(1.9)	Sa	基部欠損
157	石鏃	B-II	2.5	(1.8)	(1.5)	Sa	基部欠損
158	石鏃	B-II	2.4	1.6	1.0	Sa	
159	石鏃	B-II	1.8	1.2	0.3	Sa	
160	石鏃	B-II	(2.8)	(1.5)	(1.4)	Sa	
161	石鏃	B-II	2.5	1.6	1.0	Sa	
162	石鏃	B-II	3.0	1.8	3.0	Sa	
163	石鏃	B-II	(3.1)	(2.0)	(3.6)	Sa	先端部・基部欠損
164	石鏃	B-II	(2.7)	(1.9)	(1.7)	Sa	先端部・基部欠損
165	石鏃	B-II	(2.7)	(2.0)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
166	石鏃	B-II	(1.9)	1.9	(1.4)	Sa	先端部欠損
167	石鏃	B-II	(2.3)	2.2	(2.0)	Sa	先端部欠損
168	石鏃	B-II	(2.6)	2.1	(2.3)	Sa	先端部欠損
169	石鏃	B-II	2.4	1.6	1.5	Sa	先端部・基部欠損
170	石鏃	B-II	(2.3)	(1.7)	(0.9)	Sa	先端部・基部欠損
171	石鏃	B-II	(1.9)	2.0	(1.6)	Sa	先端僅かに欠損
172	石鏃	B-II	2.2	(1.7)	(1.2)	Sa	基部欠損
173	石鏃	B-II	(1.6)	1.1	(0.2)	Sa	基部欠損
174	石鏃	B-II	(4.3)	(1.9)	(4.9)	Sa	基部欠損
175	石鏃	B-II 不明	(2.5)	(1.6)	(1.5)	Sa	両脚欠損 (I ないし II)
176	石鏃	B-III	3.7	2.4	5.2	Sa	
177	石鏃	B-III	(2.2)	(1.4)	(0.7)	Sa	先端部・基部欠損
178	石鏃	B-III	(2.4)	1.3	(1.5)	Sa	先端部欠損
179	石鏃	B-III	(4.0)	2.5	(5.8)	Sa	先端部欠損
180	石鏃	B-III	(3.6)	2.9	(6.6)	Sa	先端部欠損
181	石鏃	B-III	(2.5)	2.2	(3.5)	Sa	先端部欠損
182	石鏃	B-III	(1.9)	1.9	(1.8)	Sa	先端部欠損
183	石鏃	B-IV	(4.5)	1.9	(5.6)	Sa	
184	石鏃	B-IV	2.7	1.7	1.6	Sa	
185	石鏃	B-IV	(2.8)	1.9	(2.5)	Sa	
186	石鏃	B-IV	(2.5)	2.4	(2.5)	Sa	
187	石鏃	B-IV	(3.0)	2.1	(4.6)	Sa	
188	石鏃	B-IV	5.4	3.0	9.1	Sa	
189	石鏃	B-IV	(2.2)	1.7	(1.3)	Sa	先端部欠損
190	石鏃	B-IV					

番号	器種	石鏃分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
201	石鏃	B-VI	(3.4)	1.6	(2.2)	Sa	先端部欠損
202	石鏃	B-VI	(3.5)	1.6	(2.5)	Sa	先端部欠損
203	石鏃	B-不明	(3.0)	(2.1)	(3.2)	Sa	先端部・基部欠損
204	石鏃	C-I	2.3	1.5	1.2	Sa	
205	石鏃	C-I	2.5	1.4	1.9	Sa	
206	石鏃	C-I	2.5	1.3	1.3	Sa	
207	石鏃	C-I	3.0	1.8	3.0	Sa	
208	石鏃	C-I	3.4	2.5	5.4	Sa	
209	石鏃	C-I	3.2	2.4	3.6	Sa	
210	石鏃	C-I	(2.0)	1.1	(0.7)	Sa	先端部欠損
211	石鏃	C-I	(3.2)	1.6	(2.7)	Sa	基部欠損
212	石鏃	C-I	2.3	(1.1)	(0.8)	Sa	基部欠損(半折)
213	石鏃	C-II1	2.6	1.8	1.9	Sa	
214	石鏃	C-II1	3.0	1.5	2.2	Sa	
215	石鏃	C-II1	(2.5)	1.9	(2.2)	Sa	
216	石鏃	C-II1	3.6	2.1	4.5	Sa	
217	石鏃	C-II1	(2.5)	(1.6)	(1.7)	Sa	先端部・基部欠損
218	石鏃	C-II1	(3.7)	(1.9)	(5.1)	Sa	先端部・基部欠損
219	石鏃	C-II1	(2.7)	1.8	(2.7)	Sa	先端部欠損
220	石鏃	C-III	2.5	1.3	1.2	Sa	
221	石鏃	C-VI	2.6	1.4	1.7	Sa	
222	石鏃	C-VI	2.7	1.4	1.6	Sa	
223	石鏃	C-不明	(3.0)	1.6	(2.5)	Sa	基部欠損
224	石鏃	D-I	2.9	1.4	1.7	Sa	
225	石鏃	D-I	3.6	1.6	3.3	Sa	
226	石鏃	D-I	4.2	(1.6)	(3.3)	Sa	
227	石鏃	D-I	3.5	1.4	2.4	Sa	
228	石鏃	D-I	3.4	1.8	3.3	Sa	
229	石鏃	D-I	3.8	1.3	2.3	Sa	
230	石鏃	D-I	2.4	1.1	1.2	Sa	
231	石鏃	D-I	3.2	1.6	1.9	Sa	
232	石鏃	D-I	2.7	1.2	1.5	Sa	
233	石鏃	D-I	(2.2)	1.3	(1.0)	Sa	
234	石鏃	D-I	(3.2)	(1.6)	(1.8)	Sa	先端部・基部欠損
235	石鏃	D-I	(3.7)	1.6	(3.3)	Sa	先端部欠損
236	石鏃	D-I	(2.2)	1.0	(0.8)	Sa	先端部欠損
237	石鏃	D-I	(3.2)	(1.6)	(2.7)	Sa	先端部・基部欠損
238	石鏃	D-II1	(2.5)	(1.3)	(0.7)	Sa	
239	石鏃	D-II1	2.8	1.1	0.8	Sa	
240	石鏃	D-II1	(1.7)	1.0	(0.4)	Sa	先端部欠損
241	石鏃	D-VI	2.8	1.5	1.4	Sa	先端部欠損
242	石鏃	D-VI	2.6	1.2	1.4	Sa	
243	石鏃	D-不明	4.4	1.5	3.0	Sa	
244	石鏃	不明	(2.5)	(1.7)	(1.3)	Sa	
245	石鏃	不明	(1.7)	(1.6)	(0.9)	Sa	先端部・基部欠損
246	石鏃	不明	(2.0)	(1.3)	(0.5)	Sa	先端部・基部欠損
247	石鏃	不明	(3.1)	(1.7)	(2.0)	Sa	先端部・基部欠損
248	石鏃	不明	(2.6)	2.0	(1.6)	Sa	基部欠損
249	石鏃	不明	(1.7)	(1.3)	(0.7)	Sa	基部欠損
250	石鏃	不明	(2.1)	(1.3)	(0.7)	Sa	基部欠損
251	石鏃	不明	(2.7)	(1.8)	(1.7)	Sa	基部欠損
252	石鏃	不明	(2.0)	(2.2)	(1.5)	Sa	先端部・基部欠損
253	石鏃	不明	(3.5)	(2.0)	測定不能	Sa	基部欠損
254	石鏃	不明-II1	(1.0)	1.9	(0.2)	Sa	先端部欠損
255	石鏃未製品	A-II1	2.3	1.9	2.3	Sa	
256	石鏃未製品	B-I	4.7	3.2	16.1	Sa	

番号	器種	石鏃分類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	備考
257	石鏃未製品	B-I	3.3	1.8	2.0	Sa	
258	石鏃未製品	B-I	2.9	1.7	1.6	Sa	
259	石鏃未製品	B-VI	(2.9)	1.9	(4.6)	Sa	
260	石鏃未製品		3.0	2.5	2.4	Sa	
261	石鏃未製品		(2.6)	(2.0)	(3.2)	Sa	
262	石鏃未製品		2.2	1.5	0.8	Sa	
263	石鏃未製品		2.3	1.3	0.9	Sa	
264	石鏃未製品		2.5	1.8	2.2	Sa	
265	石鏃未製品		2.1	1.6	0.8	Sa	
266	石鏃未製品		2.9	2.9	5.2	Sa	
267	石鏃未製品		2.5	2.1	2.1	Sa	
268	石鏃未製品		3.8	2.1	4.6	Sa	
269	石鏃未製品		4.7	2.0	8.5	Sa	
270	石鏃未製品		(3.0)	1.4	(2.2)	Sa	先端部欠損
271	石鏃未製品		2.7	(2.9)	(3.0)	Sa	基部欠損
272	石槍		(4.5)	1.7	(6.3)	Sa	
273	石槍		3.0	1.4	1.5	Sa	
274	石槍		(3.7)	1.9	(4.8)	Sa	基部欠損
275	石槍		(3.2)	2.4	(6.4)	Sa	基部欠損
276	石槍		(4.0)	2.9	(11.3)	Sa	基部欠損
277	石槍		(2.7)	(2.0)	測定不能	Sa	基部欠損
278	石槍		(2.7)	1.7	(2.7)	Sa	基部欠損
279	石槍		(1.6)	1.8	(1.7)	Sa	基部欠損
280	石槍		(2.1)	1.6	(2.3)	Sa	基部欠損
281	石槍		(2.2)	(1.9)	(2.9)	Sa	基部欠損
282	石槍		(4.0)	3.2	(9.8)	Sa	先端部欠損
283	石槍		(4.0)	2.0	(4.4)	Sa	先端部欠損
284	石槍		(3.2)	1.9	(3.4)	Sa	先端部欠損
285	石槍		(1.9)	1.9	(1.4)	Sa	先端部欠損
286	石槍		(2.5)	2.8	(7.7)	Sa	先端部欠損・基部折り
287	石槍		(3.0)	1.9	(2.2)	Sa	先端部・基部欠損
288	石槍		4.2	1.9	4.2	Sa	ナイフ状
289	石槍		(3.0)	2.5	(4.1)	Sa	石槍未製品
290	有茎尖頭器		(3.7)	2.1	(5.1)	Sa	基部欠損
291	石錐		(3.7)	2.5	(7.2)	Sa	先端部欠損
292	石錐		(2.7)	1.6	(1.2)	Sa	先端部欠損
293	石錐		(2.6)	1.0	(1.1)	Sa	先端部欠損
294	石錐		(4.8)	2.2	(5.8)	Sa	先端部欠損
295	石錐		(4.3)	2.2	(6.2)	Sa	先端部欠損
296	石錐		(1.9)	1.7	(0.7)	Sa	先端部欠損
297	石錐		(2.9)	2.9	(4.1)	Sa	先端部欠損
298	椀形石器		3.2	2.6	8.3	Sa	
299	スクレイパー		3.3	6.8	18.4	Sa	RFの可能性有
300	スクレイパー		(4.2)	(4.2)	(15.3)	Sa	(折)欠損
301	スクレイパー		(3.5)	(1.5)	(1.9)	Sa	
302	スクレイパー		(2.2)	(3.9)	(7.9)	Sa	
303	RF		0.9	2.9	1.0	Sa	
304	打製石屑丁		4.4	4.7	19.3	Sa	
305	柱状片刃石斧		(6.9)	2.6	(70.3)	Sc	刃部・側面折損
306	柱状片刃石斧		(3.9)	3.0	(23.8)	C-Sc	縦半割欠損
307	剥片		3.0	2.2	3.2	Sa	
308	剥片		4.5	1.7	5.5	Sa	
309	剥片		4.5	1.7	5.3	Sa	
310	二次加工のある剥片		4.3	(2.8)	(7.7)	Sa	石鏃未製品ないしRFの可能性有
311	円盤状石製品		(3.8)	(2.2)	(6.6)	Sa	半分欠損・側縁加工
312	板状剥片		3.7	3.7	19.4	Sa	側縁周辺に加工有・円盤状を呈する

・RFはリタッチドフレイクの略。
 ・法量で()のものは残存値を示す。
 ・重量値は、限界値120gを越す石斧以外は、(株)エー・アンド・ディのEK-120A(パーソナル電子天秤)を用い、有効数値は小数点以下一桁に統一した。
 ・石材分類で用いた略語はそれぞれ、Sa(サヌカイト)、P-Sc(紅レン片岩)、C-Sc(緑泥片岩)、B-Ch(青チャート)、Sc(結晶片岩)を示す。

4. 加茂野宮遺跡出土遺物および黒島氏収蔵資料について

1) はじめに

平成15年7月27・28の両日、資料調査を実施した。三野町の代表的な弥生時代遺跡として知られる加茂野宮遺跡の発掘調査出土遺物と、地元の収集家の黒島幸男氏によって収集された資料を対象として資料調査をすすめた結果、加茂野宮遺跡について新たな知見をえることができた。以下にその概要を報告する(図7)。

2) 加茂野宮遺跡出土遺物

加茂野宮遺跡は吉野川北岸に所在する遺跡であり、従来、弥生時代の遺跡であることが知られていた。平成8・9年に変電所新設工事に伴って発掘調査が実施され、報告書によって概要を知ることができる¹⁾。報告書によれば、古墳時代と中世の遺構面が確認されたほか、その下層より明確な遺構に伴わないものの時期的にまとまった弥生土器群が出土している。この土器群は、弥生土器の調査事例の少ない吉野川下流域において、良好な編年資料を提供している。現在、弥生土器群をはじめ、発掘調査出土遺物は三野町公民館に保管、展示されており、総合調査を実施するにあたり、加茂野宮遺跡は三野町の弥生時代相を代表するものであるので、発掘調査出土遺物についてあらためて資料調査したところ、弥生土器群のほかに包含層より出土した石製品について、弥生時代の可能性があるものが含まれているため、土器群とあわせて調査した。

図7中の1～6の弥生土器は第3遺構面より明確な遺構に伴わず出土したもので、7の石製品は第1遺構面上の包含層より出土したものである。

1は壺である。口縁の半周を欠く。底部は形式的な平底をもつものの、ほぼ丸底である。外面は縦ハケメ後ヘラミガキを施し、内面は胴部下半および頸部～口縁部を縦ハケメにより、上半は指オサエによるとおもわれる。頸部に凸帯を貼付した後に刻目を施すほか、口唇部に鋸歯文、円形スタンプ文が施文される。調整・文様とも丁寧になされている。器高18.5cm、口縁径約15cm、胴部最大径18.6cm。

2は壺である。調整は、外面は胴部上半縦ハケメ、

下半横ハケメであり、底部付近はヘラ削りによる。粘土帯接合痕を器表にとどめ、7段の積み上げが観察される。内面は口縁部ハケメの後ナデている。器高21.5cm、口縁径12.4cm、胴部最大径19.6cm。

3は壺である。外面はタタキ後、一部にハケ目がみられる。口縁部は内外ともヨコナデによる。口縁部、体部を成形した後に接合している。器高26.3cm、口縁径16.6cm、胴部最大径24cm、底部径4.8cm。

4は甕である。底部は形式的な平底である。口縁部内外は横ナデ、体部は外面タタキ後縦ハケメ、内面は縦ハケメ後ヘラ削りである。口唇部に沈線が一条施される。器高22cm、口縁径15.3cm、胴部最大径17.6cm、底部径3.3cm。

5は壺である。胴部最大径は上半にある。口縁部～頸部は内外を指オサエとヨコナデ、胴部上半はタタキおよびハケメまたはヘラ削り、下半はタタキおよびハケメ、底部付近はユビオサエ後縦ハケメによって、調整している。頸部、体部に接合の痕が観察でき、胴部下半は低部を上にしてタタキを施している。文様は口唇部に刻目、口縁部外面に3条の沈線、頸部に貼付凸帯が施されている。器高45.5cm、口縁径19.6cm、胴部最大径39.6cm、底部径6.6cm。

6は壺である。外面は口縁部～頸部ユビオサエ、ヨコナデのち縦ハケメ、体部は上半タタキ後縦ハケメ、下半縦ハケメ。体部下半～底部にかけては底部を上にして調整している。内面は口縁部ヨコナデ、体部上半は指オサエ後ハケメ、下半ヘラ削り。器高35.2cm、口縁径16cm、胴部最大径28cm、底部径6.9cm。

7は石製品である。鈕および鈕孔を作り出しており、銅鐸のような形状を呈す。全面に上下方向の研磨痕が認められ、特に鈕付近は細かく研磨されている。また、部分的に成形時の敲打痕をとどめる。高5.6cm、幅3.6cm、重さ117.1g。

以上の弥生土器壺・甕のほか、発掘調査では高坏・鉢なども出土している。これらも含めて本土器群についてみてみると、調整技法ではタタキとハケメを用い、底部は形式的な平底～丸底が多いなど、弥生時代末～古墳時代初頭の様相を示している。ただし、底部は尖り気味のものを含み、体部の形状が最大径の位置についても中位にあるものと肩の張ったものとがみられ、若干のばらつきがあることを田

川 憲氏が指摘している²⁾。田川氏はばらつきを指摘し若干の時期差を認めたとうえで、本土器群を庄内式の新相に位置付ける案を示されている。

ここで、7の石製品は中世の遺構面上の包含層より出土したものとされており、層位的に土器群との関係を明らかにすることはできない。このためか、報告書では用途として錘を想定するにとどまっている³⁾。しかし、銅鐸に酷似した鈕、鈕孔を作り出しており、形状をみる限り銅鐸形石製品とも想定できる。表面の観察では、石斧または石棒の折損したものを加工して転用した可能性がある。中世に属する第一遺構面より上位で出土していることが問題であるが、他からの流れ込みや遺構が攪乱を受けていることも考えられる。現段階では銅鐸形石製品と断定できないものの、県内では銅鐸を模した遺物の出土例もあるため、今後の調査、研究の進展によって弥生土器群との時期的な関係を明らかにすることができれば、三野町における弥生時代末～庄内期の銅鐸祭祀のあり方を検討する資料になりうると考える。

3) 黒島幸男氏収蔵資料

黒島幸男氏は三野町在住の遺物収集家である。現在、氏自身はすでに故人となっているが、遺族が氏の収集した資料を管理・収蔵されており、これらの中に三野町内より採集された考古資料も多数含まれている。収蔵されている資料について出土の経緯や状況は明確ではないが、資料に付された記述によっておおまかな出土地点を知ることができる。今回は三野町内出土とされるものについて資料調査を実施した⁴⁾。

9は土師器の坏である。須恵器と同様の技法により作成されており、外面上半をヨコナデ・指オサエ、下半はナデている。器高5cm、口縁径12.8cm。勢力スミヤより出土。

10は須恵器の甗^{はそう}である。頸部と底部を欠く。体部上半をヨコナデ、下半は時計回りの回転ヘラ削りさ

れている。最大径10cm。勢力大塚古墳より出土。

8は須恵器の平瓶である。頸部以上を欠く。体部上半ヨコナデ、下半回転ヘラ削り。底部付近はナデている。体部器高9.6cm、底部径4cm。「大塚出土」とあり、2と同じく勢力大塚古墳より出土したものであるだろうか。

11は磨製石斧である。石材は不明。正面刃部側に剥離が認められるが、使用時の剥離である。長さ17.2cm、幅6.5cm、厚さ1.8～2cm。勢力遺跡出土。

黒島氏収蔵資料については、出土地点を明らかにできないため収集資料という資料的限界があるが、勢力遺跡および勢力大塚古墳より出土したものとみられる。両遺跡の時期、内容の一端をうかがいえる資料となろう。

4) まとめ

加茂野宮遺跡出土遺物と、黒島幸男氏収蔵資料について事実関係を中心に報告した。三野町を含む吉野川上流域は発掘調査の事例が下流域に比べて少ないため、資料調査が有効な現状である。本報告が三野町の考古学研究の進展に寄与できれば幸いである。
(柳野)

注

- 1) 矢田公洋 (1997) : 『加茂野宮遺跡－四国電力株式会社三野変電所新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三野町教育委員会。
- 2) 田川 憲 (2001) : 「吉野川上・中流域の土器様相」『庄内式土器研究』X X IV、庄内式土器研究会。
- 3) 前掲注2
- 4) 黒島氏のご遺族の厚意により、特別に調査の機会、掲載の許可をいただいた。

文 献

- 矢田公洋 (1997) : 『加茂野宮遺跡－四国電力株式会社三野変電所新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』三野町教育委員会。
- 田川 憲 (2001) : 「吉野川上・中流域の土器様相」『庄内式土器研究』X X IV、庄内式土器研究会。

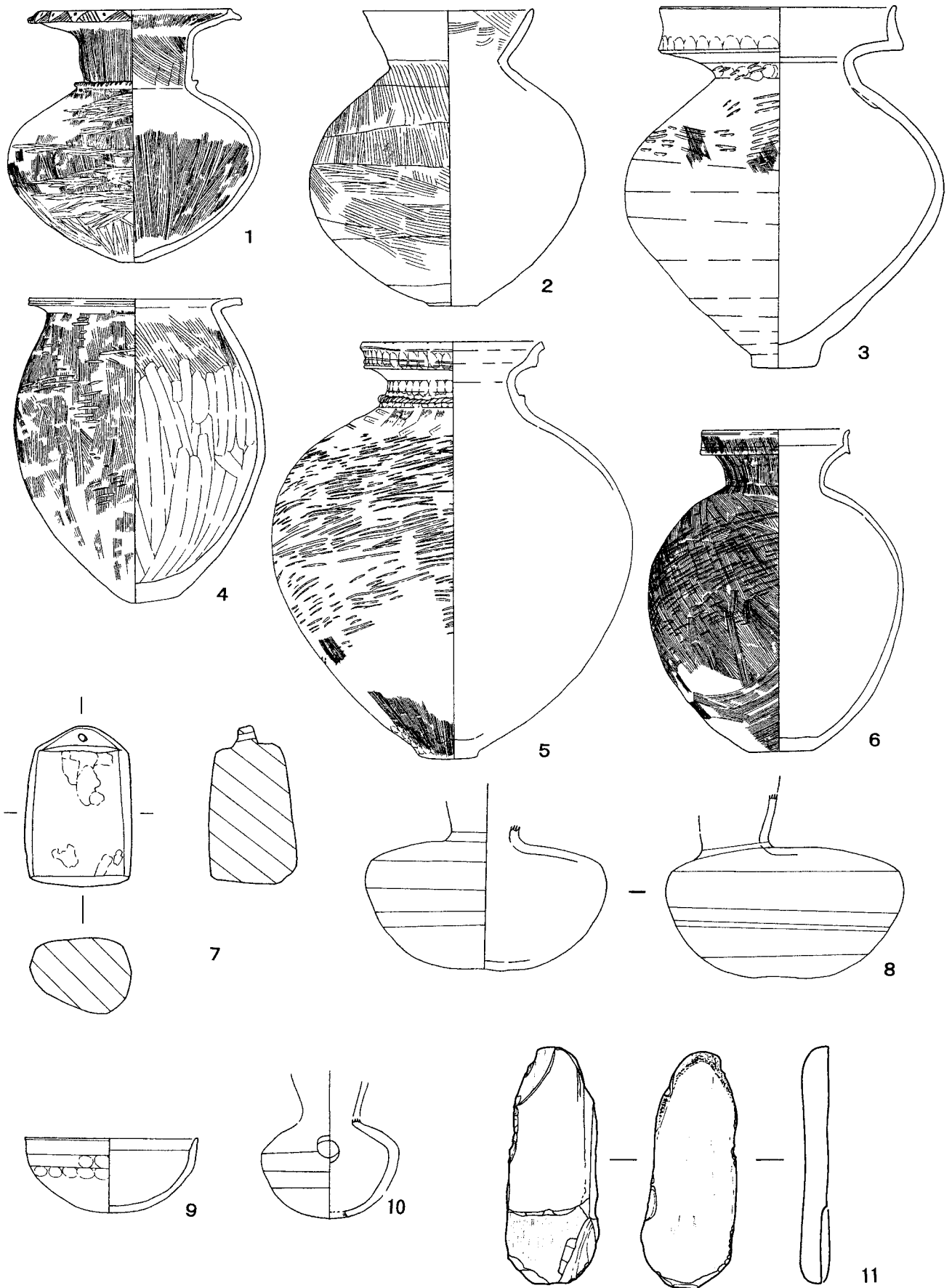


図7 加茂野宮遺跡出土遺物、黒島幸男氏収蔵資料実測図
 (1~4・8~10 S=1/4、5・6 S=1/6、7 S=1/2、12 S=1/3)

5. 芝生上遺跡出土の埋蔵銭

1968（昭和43）年夏、芝生上集会所前の町道拡幅工事の際、道を挟んだ水田畦より多量の銅銭を納めた備前焼壺が出土した。佐藤嘉代氏によると出土当初は壺を満たすほどの銭緡が納められていたようである。出土の折、水田所有者と故佐藤忠邦氏とで銅銭は折半された。以後今日に至るまで埋蔵銭の一部および備前焼壺は佐藤家で大切に保管されてきた。

備前壺は口径10.7cm、底径12.1cm、器高17.6cmを測るいわゆる蹲の壺である（図8）。体部は余り張らず頸部で屈曲直立させ、口縁部外縁を玉縁状に仕上げている。粘土紐巻上げ手法を採り、内外とも回転台ナデによって仕上げられているが、外底面は粗いナデ調整のまま放置されている。内外面とも赤褐色（10R4/4～5/4）を呈し、堅く焼締められている。内面には銭緡との接触により生じたとみられる緑青を数カ所確認した。間壁編年のIV期後半、実年代にして概ね15世紀後半に比定すべきであろう。

銅銭は30種107枚が保管されている（表3）。発見から30年以上の月日が経過した現在では残り約半分の行方は判然とせず、総数、組成、埋納状態とも不明とせざるを得ない。また出土当初は一部銭緡の紐が遺存していたらしいが、残念ながら今日には伝えられていない。佐藤家資料のうち初鑄年代の最も新

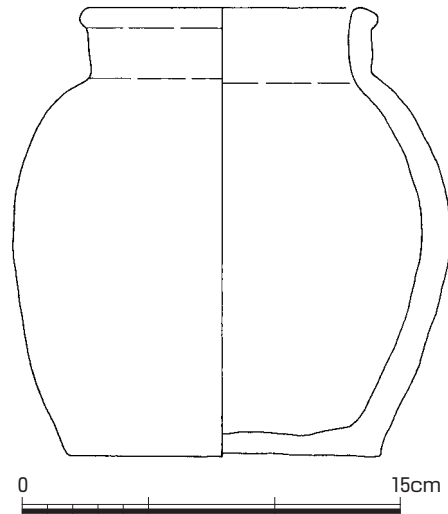


図8 埋蔵銭容器に転用された備前焼壺

しい銭種は明銭の宣徳通寶（初鑄年1433年）2枚である。特に明銭、朝鮮銭は銭緡状態を示す外縁の著しい緑青と表背面の遺存状態の良さが特筆され、備前壺の年代観とも矛盾しないことから埋納時期を概ね15世紀第2～第4四半期に比定したい。

なお佐藤家保有銭に寛永通寶1枚がある。細字体であり、寶字足がハ字状を呈する、いわゆる「八宝」で、新寛永に分類される（初鑄1668年以降）。両面とも緑青が顕著であり、かつ背面は磨滅が進行しているなど、他の銅銭とは明らかに遺存状態が異なるため、混入と見做し集計からは除外した。（幸泉）

表3 三野町芝生上遺跡出土埋蔵銭分類一覧

No.	銭貨名	書体	国・王朝	初鑄年	枚数	備考
1	開元通寶	隸	南唐	960	11	
2	太平通寶	真	北宋	970	1	
3	至道元寶	真	北宋	995	3	
4	景德通寶	真	北宋	1004	4	
5	祥符元寶	真	北宋	1008	1	
6	祥符通寶	真	北宋	1008	4	
7	天禧通寶	真	北宋	1017	2	
8	天聖元寶	真	北宋	1023	3	
	〃	篆	北宋	1023	2	
9	明道元寶	篆	北宋	1032	1	
10	景祐元寶	真	北宋	1034	1	
11	皇宋通寶	真	北宋	1038	5	
	〃	篆	北宋	1038	3	
12	至和通寶	真	北宋	1054	2	
13	嘉祐通寶	真	北宋	1056	1	
14	治平元寶	真	北宋	1064	4	
15	熙寧元寶	真	北宋	1068	5	
16	元豐通寶	隸	北宋	1078	7	
	〃	篆	北宋	1078	2	
17	元祐通寶	行	北宋	1086	5	
18	紹聖元寶	行	北宋	1094	6	背「・」1点
	〃	篆	北宋	1094	3	
19	元符通寶	行	北宋	1098	1	
20	聖宋元寶	行	北宋	1101	3	
	〃	篆	北宋	1101	2	
21	政和通寶	篆	北宋	1111	3	
22	淳熙元寶	真	南宋	1187	1	
	〃	真	南宋	1189	1	
23	嘉定通寶	—	南宋	1208	1	
24	至大通寶	—	元	1310	1	
25	洪武通寶	—	明	1368	4	
26	永樂通寶	—	明	1408	9	
27	朝鮮通寶	真	李氏朝鮮	1423	1	
28	宣徳通寶	—	明	1433	2	
29	□寧元寶	篆	(不明)	(不明)	1	
30	常□通寶	—	(不明)	(不明)	1	背「當？」折二銭
計	30種	36種	—	—	107	—

・本表は2002年7月27日に三宅良明・幸泉満夫の両名で行った分類集計結果に基づく。

6. 三野町の板碑

三野町では、現在2基の板碑の存在が確認されている。1基は香川県境に近い滝奥の「峯の兵衛」と呼ばれる小さな祠の裏にあるもので(図9-1)、一部欠損しているが長さ93cm、幅31cm、厚さ5cmを測る緑色片岩製の阿弥陀三尊種子板碑である。山形の頭部に二重線を引き、枠線の中に薬研彫による種子(キリーク・サ・サク)を配した阿波型板碑で、種子の下部には花瓶がやや抽象的に表現されている。銘文を持つが摩滅が著しく、造立年や造立目的(追善・逆修等)を判読することは困難である。

もう1基の板碑(図9-2)は、勢力会館北の四辻に元禄十二年(1699)六月廿三日造立の庚申塔と並んで立っている。この板碑は、緑色片岩の自然石をほとんど加工せずに用いたもので、山形の頭部や二重線・枠線も見られず、いわゆる阿波型板碑の範疇に属さないもの

である。基部がコンクリートに埋もれているが、現状で長さ120cm、幅73cm、厚さ10cmを測る。表面には阿弥陀三尊種子(キリーク・サ・サク)とその「サ」と「サク」の二種子の間に「カ」(地藏尊)の種子を刻み、合計4種子を配した珍しい板碑である。種子の下方には、長さ6cmほどの直線状の線刻が見られ、花瓶を抽象的に表現する過程のものと思われる。

これら二基の板碑は、板碑の造立

が隆盛を極めた吉野川下流域を中心とする地域から遠く隔たった三野町にも、中世民衆の板碑信仰が浸透していた事実を知るうえで貴重な資料である。

なお、同じ遠隔地という地理的条件にあり、板碑の石材に適した結晶片岩の入手が困難な県南地域と比較した場合、同地域では、石材あるいは製品自体を搬入したり、結晶片岩に代わる砂岩等の石材を用いながらも板碑の造立が比較的顕著に行われたのに対し、結晶片岩の入手が決して困難でない当該地域において板碑の造立数が極めて少ない状況は、板碑信仰波及の背後に潜在する政治的・社会的要因と密接な関連性があるものと理解され、興味深い。

(三宅)

文献

- 岡山真知子「日和佐町の板碑」阿波学会・徳島県立図書館『総合学術調査報告 日和佐町』(阿波学会紀要第43号)1998年。
三好郡郷土史研究会『三好郡の石造文化財』1999年。

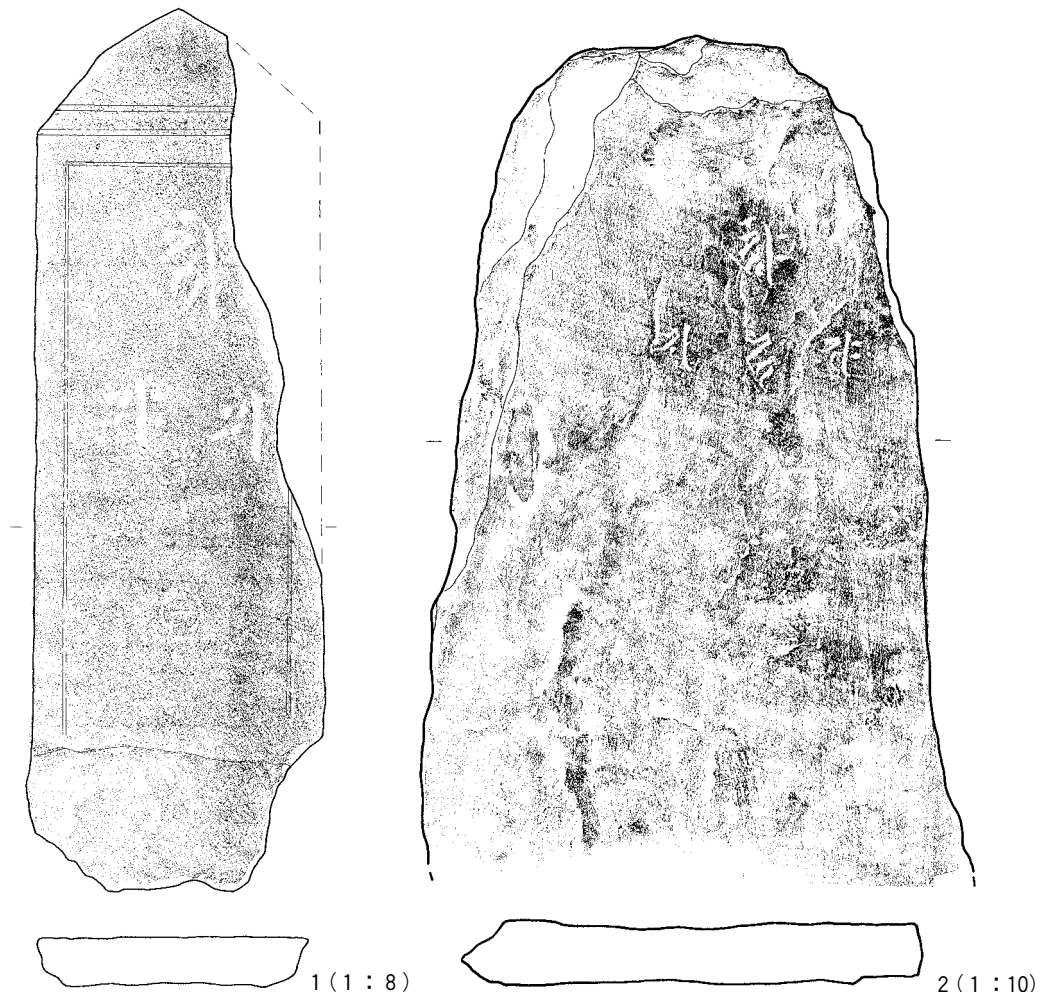


図9 三野町の板碑実測図

7. おわりに

本年度は三班体制で調査を実施した。

第一班は石器調査で、勢力遺跡や馬場遺跡などで故佐藤氏と奥様が長年採集された石器の全てを実見し、代表的な石器の実測と法量測定を行った。

第二班は土器調査で、加茂野宮遺跡三野変電所出土で三野公民館に展示されている土器と、芝生地区で故黒島氏が採集された土器を実測した。

第三班は、「三好郡の石造文化財」に報告されている三野町の板碑2基の拓本と実測を行った。

今回の調査での課題は、加茂野宮遺跡四国電力三

野変電所出土の遺物の再検討をし、三好郡の古代政治の中心地問題等を含めた議論が必要である。また、加茂野宮遺跡の範囲とか時代の位置づけ及び遺跡の内容等も今後の研究課題としなければならない。最終課題は、勢力地区等の採集石器や出土遺物を一同に展示し、町民や県民に広く公開展示する施設が急務である。

今年の調査では佐藤嘉代様、黒島敬様をはじめ役場の久保誠課長及び町教委の千葉勲教育長、辺見敏正様等に色々と御教示や御協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。